



**東京通信機工業株式会社**  
TOKYO COMMUNICATION EQUIPMENT MFG.CO.,LTD.

---

---

**二重ジャンパ自動試験装置「8」  
(WJP-A TE-8)  
取扱説明書**

# 必ずお読みください

この「取扱説明書」には、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

安全にお使いいただくために必ずお守りください



**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをしますと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをしますと、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



**お願い**

この表示を無視して、誤った取り扱いをしますと、本品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

# ご使用になる時のご注意



安全にお使いいただくために必ずお守りください

- ◆ 本品に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。火災・感電の原因となります。水辺での使用はおやめください。
- ◆ 万一、内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、当社までご連絡ください。そのまま使用しますと、火災・感電の原因となります。
- ◆ AC100Vの電源電圧以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆ 加湿器のそばなど、湿度の高いところでの使用はしないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ◆ 本品の上やそばに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- ◆ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり引っ張ったりねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら当社に修理をご依頼ください。
- ◆ テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用したり、タコあし配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆ 本品を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆ 万一、本品内部に金属類や燃えやすいものなどの異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、当社までご連絡ください。そのまま使用しますと、火災・感電の原因となります。
- ◆ 本品の上カバーははずさないでください。感電の原因となります。
- ◆ 異常音がしたり、上カバーなどが熱くなっている状態のまま使用しますと、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いて当社に点検をご依頼ください。
- ◆ 万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用しますと、火災・感電の原因となります。必ず電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して当社に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- ◆ 万一、本品を落としたり、本体が破損した場合、電源プラグをコンセントから抜いて、当社にご連絡ください。そのまま使用しますと、火災・感電の原因となります。



## 注意

安全にお使いいただくために必ずお守りください

- ◆ 直射日光の当たるところや、室温の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- ◆ 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- ◆ 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。雷によっては、火災・感電の原因となることがあります。
- ◆ 油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所などに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ◆ 本品を熱器具に近づけないでください。電源コードの被覆が溶けたり、本体が異常加熱され、火災・感電の原因となることがあります。
- ◆ 本品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本品の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- ◆ お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- ◆ 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



## お願い

安全にお使いいただくために必ずお守りください

- ◆ 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- ◆ ベンジン、シンナーなどで絶対にふかないでください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を布につけ、よく絞ってからふいて、その後乾いた柔らかい布でふきとってください。
- ◆ 次のような場所での使用は避けてください。
  - ・ゴミやほこりの多い場所、鉄粉・有毒ガスなどが発生する場所。
  - ・テレビ、ラジオ、こたつ、アンプ、スピーカーボックスなど、磁気を帯びているところや電磁波が発生している場所。
- ◆ 分解・改造された本品は、修理に応じられない場合があります。
- ◆ 本品は、日本国内用に設計されています。電圧、交換方式の異なる海外では使用できません。

## — 目次 —

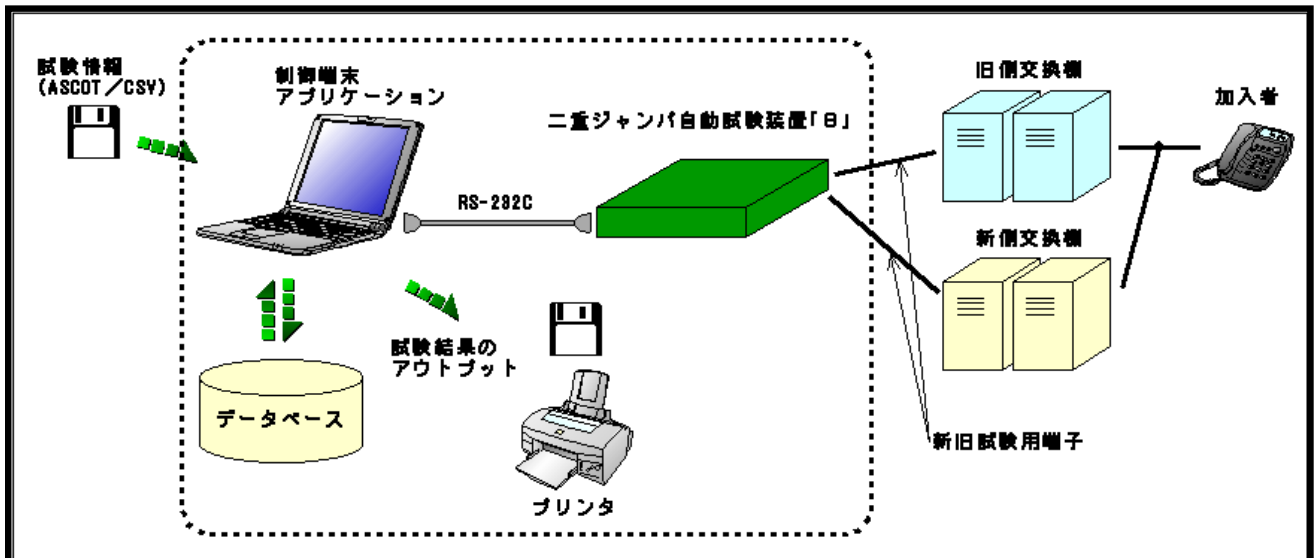
1. 概要	1
1. 1 全体構成	1
1. 2 特徴	1
1. 3 構成品	2
1. 4 二重ジャンパ自動試験装置「8」外観	2
1. 5 仕様	3
1. 6 アプリケーションの動作環境	3
2. 試験前の注意	4
3. 作業フロー	5
4. 事前準備	6
4. 1 サービスオーダー登録	6
4. 2 機器間の接続	8
4. 3 アプリケーションのインストール	9
4. 4 ドライバのインストール	9
5. アプリケーションソフトの操作	10
5. 1 起動	10
5. 2 通信ポート設定	10
5. 3 データベースファイルの選択／新規作成	11
5. 4 交換局情報設定	12
5. 5 試験データ読込	13
5. 6 メイン画面	19
5. 7 回線種別設定	24
5. 7-1 公衆回線に変換	24
5. 7-2 オフトーク回線に変換	27
5. 8 試験設定	30
5. 9 試験用端子接続確認試験	33
5. 10 共用LC設定	34
5. 11 データサンプリング	37
5. 12 試験実施	39
5. 13 試験結果アウトプット	47
6. その他の機能	49
6. 1 終了	49
6. 2 表示項目選択	50
6. 3 フィルタ／フィルタ解除	51
6. 4 公衆回線抽出	53
6. 5 データの並べ替え	54
6. 6 編集	55
6. 7 削除	56
7. こんなときは	57
8. 保守	59
8. 1 メンテナンス	59
8. 2 故障修理	59
8. 3 本品に関するお問い合わせ	59
保証規定	60

## 1. 概要

二重ジャンパ自動試験装置「8」（カナ品名：WJP-ATE-8）は、アナログ交換機（張り出し含む）の巻き取りにおいて、新側交換機と旧側交換機に布設する二重ジャンパの正常性を自動的に確認する装置です。

本書では、二重ジャンパ自動試験装置「8」の取り扱い方法について説明します。

### 1. 1 全体構成



### 1. 2 特徴

- データベース蓄積機能
  - ASCOT出力データ（ジャンパ施工データファイル）等のCSVデータファイルから、電話番号、線番、收容位置など試験に必要な情報を入力し蓄積します。
  - 試験結果を蓄積します。
  - ユーザー指定のファイル名でデータベースファイルを生成します。
  - データの編集、削除が可能です。
  - データの並べ替え、検索、条件抽出が可能です。
- 各種設定機能
  - 交換機機種、局番などの交換局情報を登録します。
  - データの回線種別を設定します。
  - 回線毎に共用ラインカードまたは経済化ラインカード（以下、共用LCおよび経済化LCと呼称）の設定ができます。
  - 試験に必要な設定を行います。
- 試験機能
  - 試験には「詳細モード」「簡易モード」の2種類の試験があります。

詳細モード：正常、レバース、片断、レバース片断、両断を識別できます。  
 ※共用LCおよび経済化LCの設定とサンプリングを行う必要があります。

簡易モード：正常、レバースまたは片断、両断を識別できます。  
 （レバースと片断の区別はつきません。）

※試験実施により、お客様話中、サービスオーダー登録漏れを識別します。

  - 試験装置本体を制御し二重ジャンパ試験を行います。
  - 試験用端子の正常性確認を行うことができます。
- データベースからのアウトプット
  - 目的のデータを印刷することができます。
  - 目的のデータをCSVデータファイルに保存することができます。

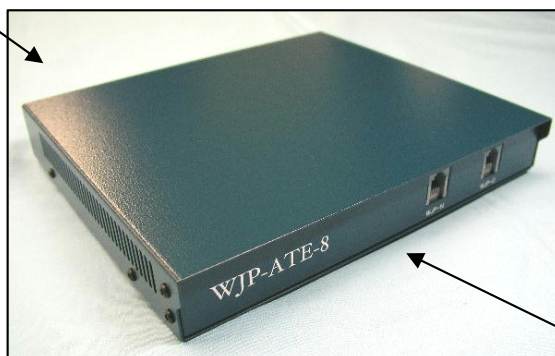
### 1. 3 構成品

構 成 品	数 量
二重ジャンパ自動試験装置「8」本体	1 個
A C 電源コード	1 本
R S - 2 3 2 C ケーブル (ストレート)	1 本
試験端子接続コード (モジュラーケーブル)	2 本
取扱説明書	1 部

※ P C に R S - 2 3 2 C ポートがない場合は、U S B / R S - 2 3 2 C ポート変換ケーブルをご使用ください。

### 1. 4 二重ジャンパ自動試験装置「8」外観

背面パネル



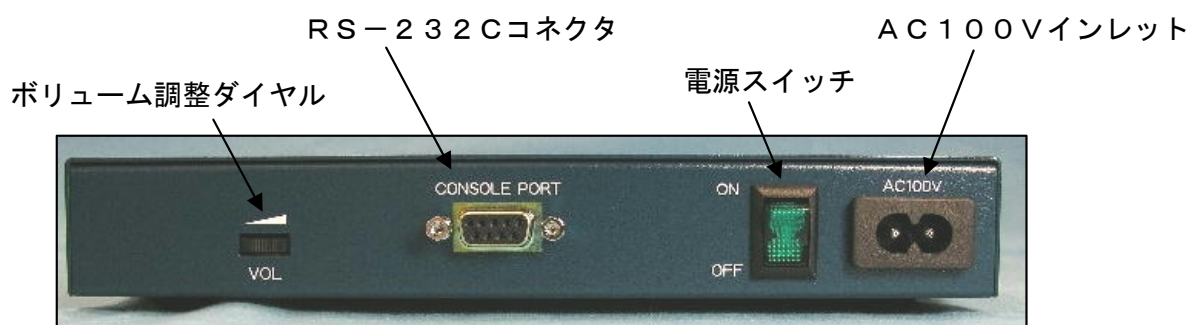
表面パネル

モジュージャック (新側)

モジュージャック (旧側)



表面パネル



背面パネル

## 1. 5 仕様

■本品の基本仕様を以下に示します。

項目		仕様
電気的特性	使用電源	AC100V±10V、周波数50Hz/60Hz
	消費電力	200mA以下
	発信周波数	PB信号：0～9
	絶縁抵抗	常温、常湿において、本装置の電源線と筐体間に直流100Vで測定し1MΩ以上であること。
	耐電圧	常温、常湿において、本装置の電源線と筐体間に交流150Vを1分加えても異常がないこと。
	発信端子数	2端子
	制御方式	PCのRS-232Cインターフェースによるコマンド制御
	試験信号	音声帯域交流信号
寸法及び質量	寸法	32（高さ）×215（幅）×190（奥行）mm ただし、ゴム足等の突起物は含まない。
	質量	1.2kg以下
試験	試験判定項目	(1) 正常 (2) 両線断線 (3) 片線断線 (4) L1-L2の逆付け（レバース） (5) 片線断線のL1-L2逆付け (6) 加入者通話中 (7) 欠番
	試験速度	1回線あたり約10秒      1時間約360回線（正常時）
	試験距離	発信端子1～発信端子2間の線路損失：7dB以下（1.5kHz）
	試験回線数	最大5万回線（1データファイルにつき）
使用環境条件	周囲温度	0～40℃（ただし、結露なきこと）
	相対湿度	20～85%

## 1. 6 アプリケーションの動作環境

- パソコン                   : 各社DOS/Vパソコン
- OS                         : 日本語Microsoft®Windows® XP・2000・Me・98SE・98
- ディスプレイ解像度     : 1024×768以上（推奨）
- CPU                        : 650MHz以上（推奨）
- メモリ                    : 128MB以上（推奨）
- ディスク                 : 空き容量 20MB以上
- その他                    : RS-232Cシリアルポート（USB-RS-232C変換も可能）



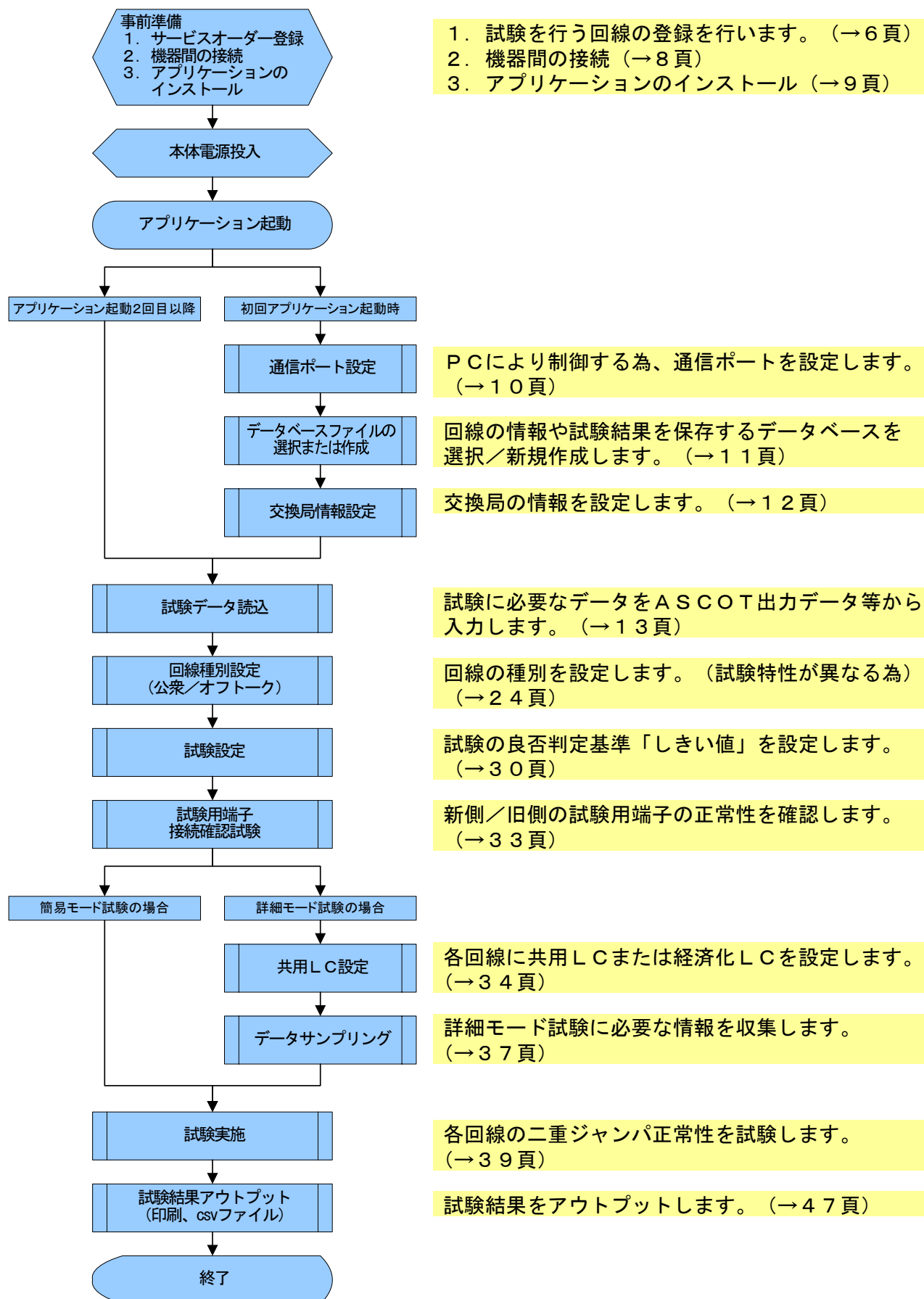
## 2. 試験前の注意（重要）

■試験を行う際は、次の事に注意し試験を行って下さい。

- ①交換機が「MHN-S」「RSBM」の場合、試験端子の設定は“BON”をOFFにし、電流値を50mA（または35mA）に設定してください。（推奨）  
※二重ジャンパ自動試験装置「8」に接続する試験端子は、BONの設定が可能な共用LCを使用してください。  
※設定は試験端子のみです。試験実施回線の設定は必要ありません。（BONをONのまま試験を行うと、BONがOFFの場合より信号の受信レベルが低くなります。）  
※BONをOFFにする場合は、共用ラインカード設定ツールを使って行います。
- ②日立製の共用LCおよび経済化LCは他メーカーと異なり、試験信号受信レベルの減衰が大きくなっています。  
日立製と他メーカーの共用LCおよび経済化LCが混在する場合は、日立製の設定だけを詳細モードにする等、試験単位を分けて試験を行った方が正確な試験が行えます。（→30頁参照）  
（日立製の共用LCおよび経済化LCは信号の受信レベルが低く、片断やレバースと誤判定する可能性が高くなります。）  
※ラインカードのメーカー毎の特性は共用LCも経済化LCも同様です。
- ③試験時、CR付断線片のコンデンサの個体差（静電容量値の変動）によって反転判定が正しく行えない可能性があります。  
誤判定した場合は、CR付断線片を交換してから再度試験を行ってください。
- ④試験には「詳細モード」「簡易モード」の2種類の試験があります。  
詳細モード：正常、レバース、片断、レバース片断、両断を識別できます。  
※共用LCおよび経済化LCの設定とサンプリングを行う必要があります。  
簡易モード：正常、レバースまたは片断、両断を識別できます。  
（レバースと片断の区別はつきません。）  
※試験実施によりお客様話中、サービスオーダー登録漏れを識別します。
- ⑤試験方式の特性上、ADSL回線でお客様側スプリッタが装着されていない回線の場合、片断を正常と誤判定してしまう恐れがあります。

### 3. 作業フロー

以下に、基本的な作業フローを示します。



## 4. 事前準備

### 4. 1 サービスオーダー登録

■ サービスオーダー登録を行います。下記のようなコマンドを入力してください。

(1) 巻取り（移行元と移行先が違う交換機）時の二重ジャンパ検証試験用端子の登録

#### ◆ MHN-S

```
-----
NGNR N:XXXXXXXX, IFN:XXXXXXXX, AOD, PB, WJPO/
-----
```

#### ◆ D70

```
-----
¥SOD/
NGNR N:XXXXXXXX, EL:XXXXXXXX, PB, WJPO/
PEND/
-----
```

#### ◆ DMS-10

```
-----
#OVLY DN
NEW STN AA BBBB LCE XX X XX XX PB DJT (注)
****
-----
```

- (注) ・ 「AA」には市内局番を入力して下さい。(1桁～4桁の場合があります。)  
 ・ 「BBBB」には收容位置に登録する電話番号を入力して下さい。  
 ・ 「XX」には旧側の收容位置情報を入力して下さい。

※試験端子のサービスオーダー登録時、移行元、移行先が違う交換機の場合サービスオーダーのパラメータはともに「WJPO」となります。

※交換機が「MHN-S」、「D70」の場合はSETコマンドにて“MSR”を登録する必要があります。下記のコマンドを入力してください。

#### ◆ MHN-S

```
-----
DSP SET/ (MSR登録状態が未登録であることを確認する)
$GDR/
SET MSR, REG/
DSP SET/ (MSR登録状態が登録中になっていることを確認する)
-----
```

※MSRを解除する場合は、下線部「REG」を「CCL」と入力してください。

#### ◆ D70

```
-----
¥DSP SET/ (MSRコマンドが未登録であることを確認する)
¥GDR/
¥SET MSR, REG/
¥CNV SET, OK/
¥DSP SET/ (MSRのところはREGになっていることを確認する)
-----
```

※MSRを解除する場合は、下線部「REG」を「CCL」と入力してください。

※二重ジャンパ自動試験装置「8」を用いて「MHN-S」又は「D70」の同一交換機内で二重ジャンパ試験を実施する場合にはSETコマンドは必要ありません。

## (2) 收容替え（移行元、移行先が同一交換機）時の二重ジャンパ検証試験用端子の登録

## ◆MHN-S

-----  
NGNR N:XXXXXXXX, IFN:XXXXXXXX, AOD, PB, WJPN/ (新收容位置用)NGNR N:XXXXXXXX, IFN:XXXXXXXX, AOD, PB, WJPO/ (旧收容位置用)  
-----

## ◆D70

-----  
¥SOD/

NGNR N:XXXXXXXX, EL:XXXXXXXX, PB, WJPN/ (新收容位置用)

NGNR N:XXXXXXXX, EL:XXXXXXXX, PB, WJPO/ (旧收容位置用)

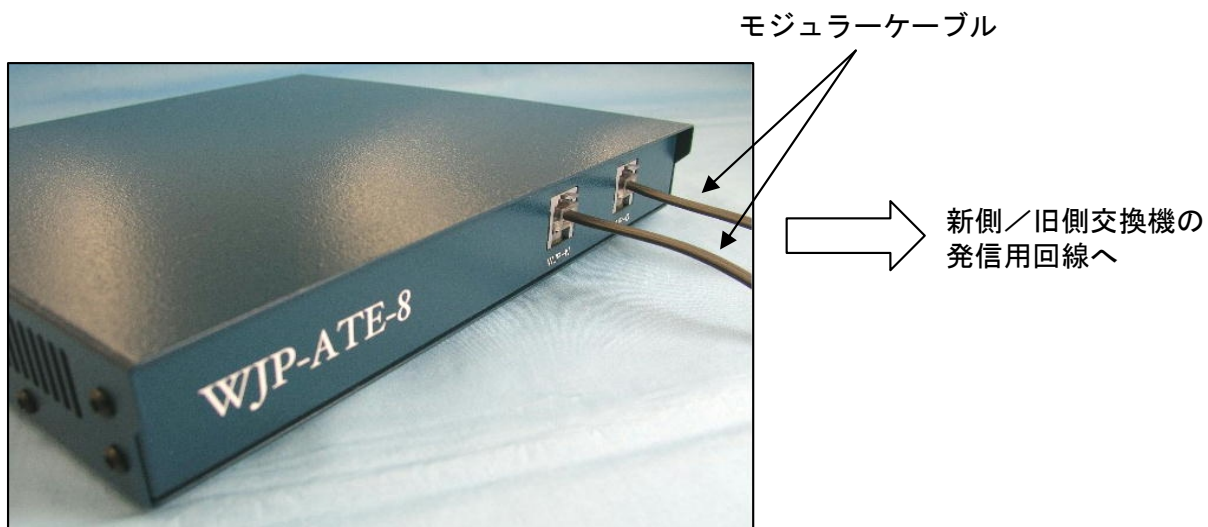
PEND/  
-----

※二重ジャンパ自動試験装置「8」を用いて「MHN-S」又は「D70」の同一交換機内で二重ジャンパ試験を実施する場合にはSETコマンドは必要ありません。

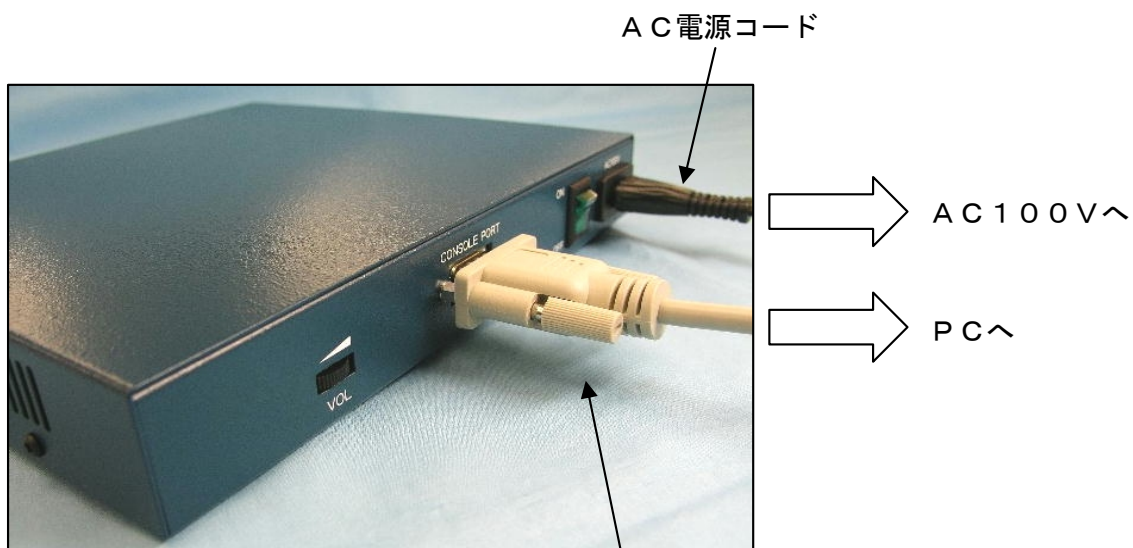
## 4. 2 機器間の接続

■各ケーブルは下図のように接続してください。

※各ケーブルは抜け等が無いよう、確実に接続してください。



正面



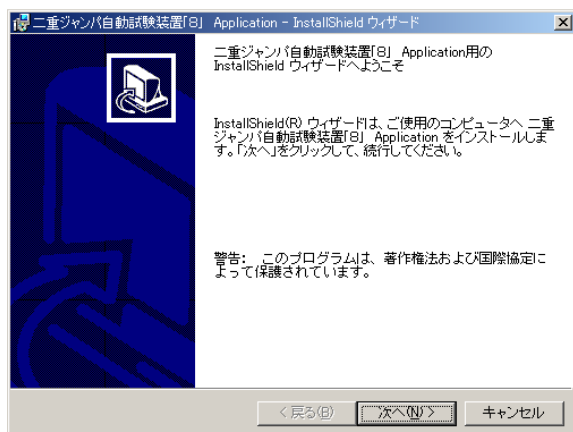
背面

RS-232Cケーブル

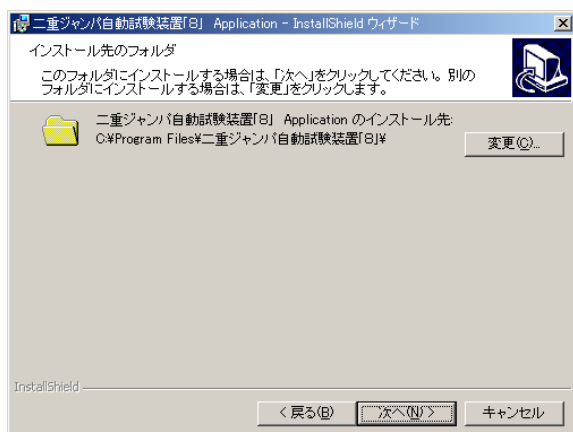
## 4. 3 アプリケーションのインストール

### ■アプリケーションのインストールを行います。

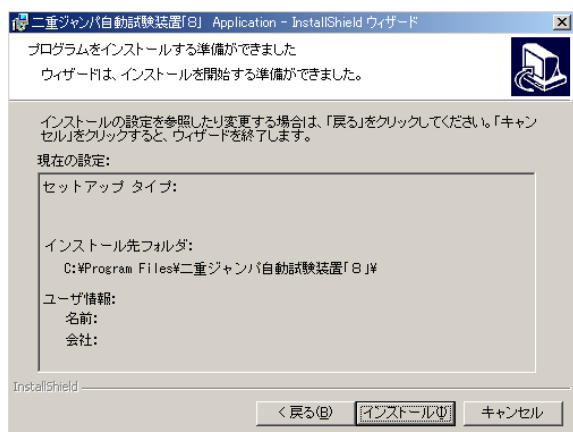
CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。CD-ROMは自動再生されます。



- セットアップ画面が表示されます。「次へ」を選択して下さい。



- インストール先のフォルダを指定できます。任意のフォルダを指定し、「次へ」を選択して下さい。



- 表示内容を確認し、問題がなければ「インストール」を選択して下さい。インストールが開始されます。
- インストール完了後、「完了」をクリックし、インストールを終了して下さい。

## 4. 4 ドライバのインストール

■一部のパソコン内の環境ではドライバをインストールする必要があります。ドライバのインストール手順を示します。

- ①マイコンピュータを開く。
- ②CD-ROMのアイコンを右クリックし、開くを選択する。
- ③「MDAC」のフォルダを開く。
- ④フォルダ内の2つのファイルをそれぞれ実行する。  
(ドライバは「mdac」から実行のこと)
- ⑤インストールが開始される。
- ⑥インストール完了。
- ⑦インストール完了後、PCを再起動する。

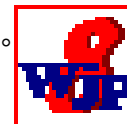
## 5. アプリケーションソフトの操作

■試験は「3. 作業フロー」の手順で行います。

### 5. 1 起動

■パーソナルコンピュータ（以下、PCと呼称）、二重ジャンパ自動試験装置「8」（本体）を接続し起動してください。

WJPのアイコンをクリックし、アプリケーションを立ち上げてください。



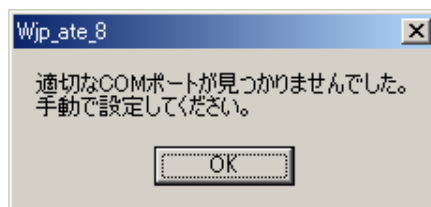
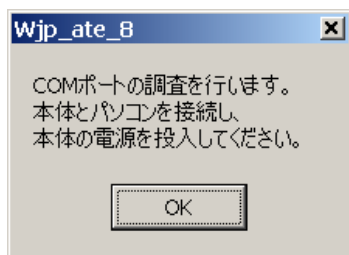
### 5. 2 通信ポート設定



■PCにより試験を制御するため、通信ポートを設定します。（必須）

PCと本体はRS-232Cケーブルによって接続されますが、PCにCOMポートが複数存在する場合、どこに接続されているか設定します。

※本体が接続され、電源ONの状態ならCOMポートを自動で認識しますが、PCと本体が接続されていないとCOMポートは認識されません。

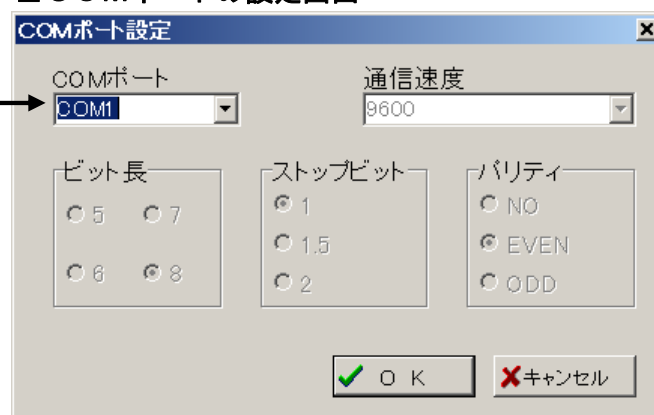
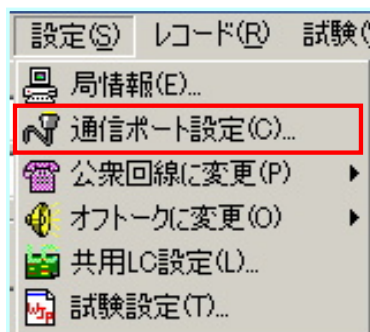


■自動設定されない場合、手動でCOMポートの設定を行ってください。

COMポートの設定画面が表示されます。

#### ■COMポートの設定画面

どのポートを使用するか  
コンボボックスで選択します。  
使用可能なCOMポートが  
一覧表示されます。



※通信ポート設定は起動時の他にも、メニュー上から選択することでも可能です。

※使用するCOMポートについては、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェア」→「デバイスマネージャー」→「ポート」の手順で確認してください。

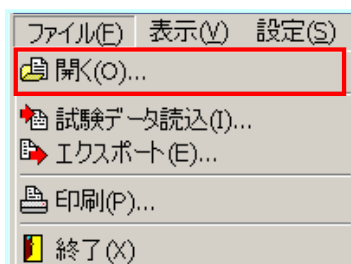
※初回アプリケーション起動時にもこの機能が実行されます。二回目以降のアプリケーション起動時には、前回設定されたCOMポートが設定されています。



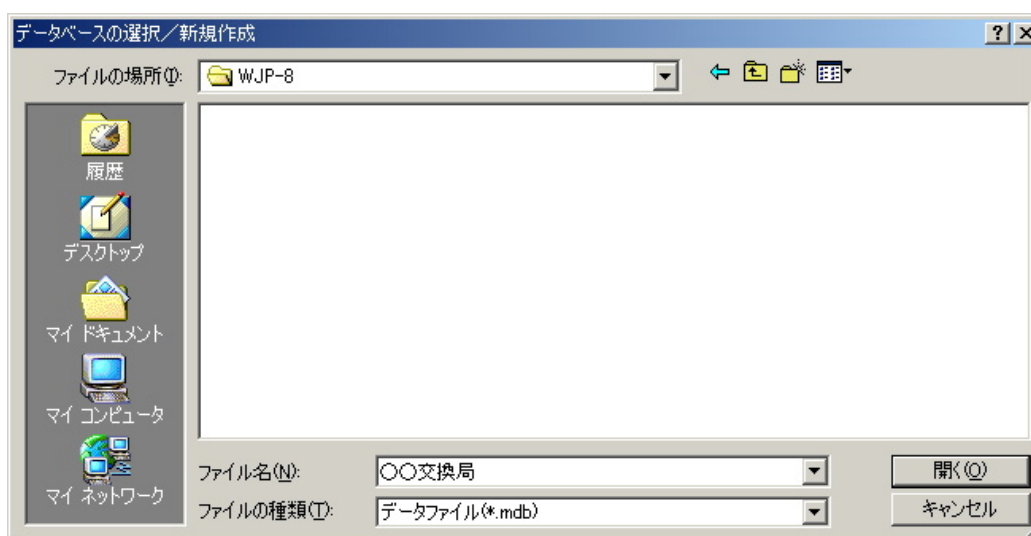
### 5. 3 データベースファイルの選択／新規作成



- 回線の情報や試験結果を保存するデータベースファイルを選択／新規作成します。（必須）ファイル名を選択、または新規作成してください。



※データベースファイルの選択／新規作成は、メニュー上から選択することでも可能です。

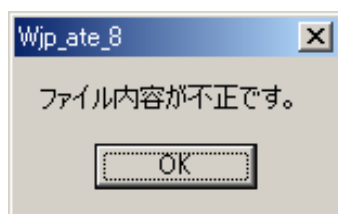


データベースファイル名を記述、または選択してください。

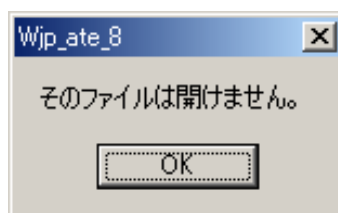
- ファイルの新規作成は、ファイル名を記述し、「開く」ボタンをクリックしてください。

※選択したファイルが二重ジャンパ試験用でない場合はエラーとなります。（下記参照）

※アプリケーションを再起動すると、前回開いたデータベースを読み込みます。



※二重ジャンパ試験とは関係のないファイルが選択された場合にエラーメッセージが表示されます。再度ファイルを確認してください。



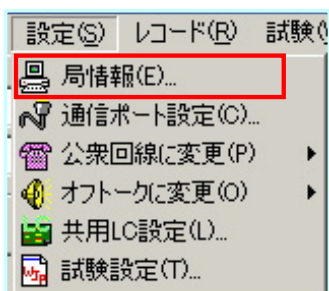
※開こうとしたファイルがWindows上で開かれている場合に表示されます。Windows上で開いているファイルを終了してからデータベースファイルの選択を行ってください。（試験データ読込時と同様）



## 5. 4 交換局情報設定



### ■ 交換局の情報を設定します。(必須)



※交換局情報設定は、メニュー上から選択することでも可能です。

※設定項目は、交換局名、市外局番、新側／旧側交換機機種の4項目です。

### ■ 局情報設定画面

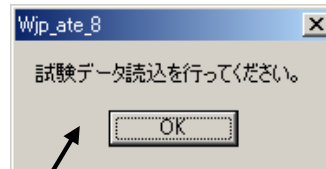
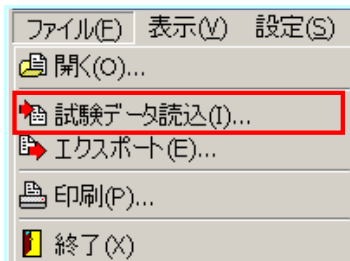
交換機設定はコンボボックスで選択または新規書込で行います。

※「5. 2 通信ポート設定」「5. 3 データベースファイルの選択／新規作成」「5. 4 交換局情報設定」は初回起動時のみ自動表示されます。  
2回目以降の起動で設定を変更したい場合は、メニューから選択してください。

## 5. 5 試験データ読込

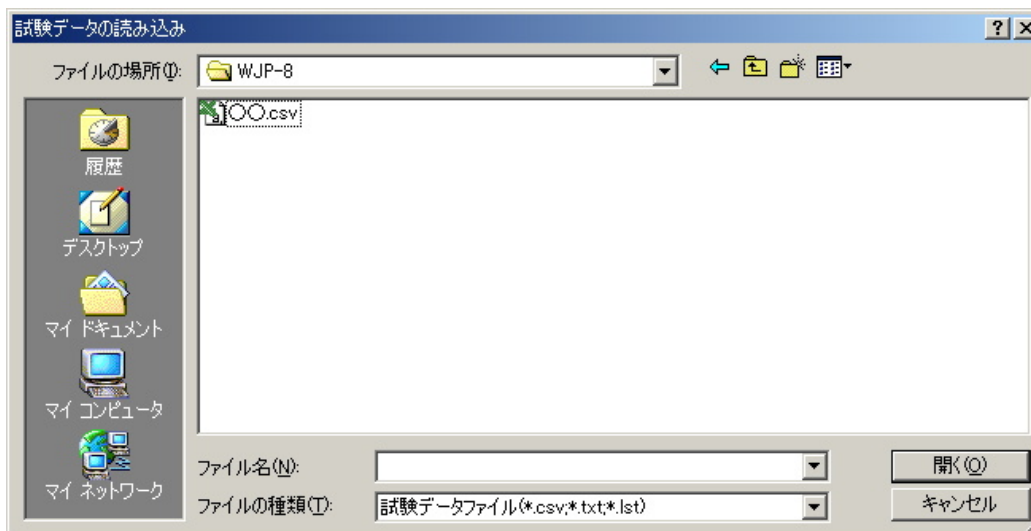


- 電話番号や收容位置データ等、試験に必要な情報をASCOT出力データ等から入力し、データベースに蓄積します。(必須)  
(一度入力したデータの更新(差分データ)も可能です。詳細は18頁参照)
- 「ファイルメニュー」から「試験データ読込」を選択し、ファイルを指定してください。



※試験データ読込が必要な場合に表示されます

### ■試験データファイル選択



試験データファイル名を選択してください。

※試験データはASCOT出力データの二重ジャンパ施工表(CSV形式ファイル)を読み込んでください。

※ファイル形式は“csv”、“txt”、“lst”で、カンマ区切りテキストファイルでなければなりません。

※データベースのレコード数は最大5万件なのでこれを越える入力はできません。

※入力件数が多く、かつPCのスペックが低いと処理時間が長くなってしまいます。

## ■試験データの確認と読み込み設定

- 読み込んだデータファイルの内容を確認します。
  - データベースに取り込む際の列番号を指定します。
  - データベースへの取り込みを開始します。
  - 「ADSL（加入者側）」または「ADSL（交換機側）」のどちらかを取り込んだ場合、データ上になんらか1文字でも入っていれば、回線種別が「ADSL」となります。
- ※ASCOT出力データの電話番号には先頭の「0（ゼロ）」と最初の「-（ハイフン）」が入っていません。そのデータを修正するなどして「-（ハイフン）」が2つ以上入っていると取り込めません。また取り込める桁数は9桁までです。

試験データの確認

データのパターン  
線番号

パターンを保存

DBへ取込 キャンセル

【列番号指定】 ※読み込む項目にチェックを入れ、列番号を指定してください。

電話番号 6 裏番号 8 線番 2 線番2 3  
 新収容位置 4  旧収容位置 5  ADSL(加入者側) 0  ADSL(交換機側) 0  
 SLN 0  RLN 0  事業者コード 0  備考欄 0

※上以外の項目がある場合、任意の項目名を設定してください。(初回のみ有効)

その他1 0  その他2 0  その他3 1  その他4 0

【スキップ行数指定】 ※読み込まない行数(先頭から数えて)を設定してください。

スキップ行数 0

50%終了

No	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
1	0-001-06-00-0	ア29-058		0-006-10-00-5	52522-2327							
2	0-001-05-12-6	イ18-035		0-005-02-06-1	52522-4400							
3	0-001-05-13-0	イ18-046		0-005-02-07-1	52522-5728							
4	0-001-05-13-1	イ08-023		0-005-04-05-5	52522-4078							
5	0-001-05-13-6	イ19-047		0-005-05-01-5	52522-4230							
6	0-001-05-14-0	ウ36-024		0-000-06-14-1	52261-0583							
7	0-001-05-14-2	カ11-061		0-000-07-14-2	52261-0588							
8	0-001-05-14-3	リ16-093		0-000-07-15-0	52261-0852							
9	0-001-06-00-8	アレ22-078		0-005-10-00-8	52522-1999							
10	0-001-06-00-2	アア22-078		0-005-10-00-6	52522-1246							
11	0-001-06-00-3	イイ11-025		1-000-02-00-6	52522-9212							
12	0-001-06-00-4	イイ06-087		1-000-04-00-2	52522-8690							
13	0-001-06-00-5	ウ34-088		0-000-02-00-0	52522-0812							

データ数 20

## ■試験データの確認フォームの説明

### ①ファイルビュー

ファイルから読み込んだデータを一覧表示します。  
タイトルには列番号が表示されます。

このフォームに読み込んだデータファイル名

ファイルビュー:C:\¥WORK¥WJP...¥APPLICATION¥WJP-8¥○○.CSV

No	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
1	0-001-06-00-0	ア29-058		0-006-10-00-5	52522-2327							
2	0-001-05-12-6	イ18-035		0-005-02-06-1	52522-4400							
3	0-001-05-13-0	イ18-046		0-005-02-07-1	52522-5728							
4	0-001-05-13-1	イ08-023		0-005-04-05-5	52522-4078							
5	0-001-05-13-6	イ19-047		0-005-05-01-5	52522-4230							
6	0-001-05-14-0	ソ36-024		0-000-06-14-1	52261-0583							
7	0-001-05-14-2	カ11-061		0-000-07-14-2	52261-0588							
8	0-001-05-14-3	リ16-093		0-000-07-15-0	52261-0852							
9	0-001-06-00-8	アレ22-078		0-005-10-00-8	52522-1999							
10	0-001-06-00-2	アア22-078		0-005-10-00-6	52522-1246							
11	0-001-06-00-3	イイ11-025		1-000-02-00-6	52522-9212							
12	0-001-06-00-4	イイ06-087		1-000-04-00-2	52522-8690							
13	0-001-06-00-5	ウ34-088		0-005-02-00-0	52522-0812							

データ数 20

データの数

データリスト

### ②列番号指定 1

各項目に該当するのは(ファイルの)何列目か? そのデータを読み込むか? 指定します。

【列番号指定】 ※読み込む項目にチェックを入れ列番号を指定してください。

電話番号	6	<input checked="" type="checkbox"/> 裏番号	8	<input checked="" type="checkbox"/> 線番	2	<input checked="" type="checkbox"/> 線番2	3
<input checked="" type="checkbox"/> 新收容位置	4	<input checked="" type="checkbox"/> 旧收容位置	5	<input type="checkbox"/> ADSL(加入者側)	0	<input type="checkbox"/> ADSL(交換機側)	0
<input type="checkbox"/> SLN	0	<input type="checkbox"/> RLN	0	<input type="checkbox"/> 事業者コード	0	<input type="checkbox"/> 備考欄	0

読み込み指定  
(チェックで読み込み)

列番号指定

※電話番号は必須です。

### ③列番号指定 2

②で設定以外の項目が存在する場合、任意の項目名を設定できます。基本的には②と同様です。  
(※項目名の設定は初回のみ有効で、差分データ読み込みを行う場合には設定できません。)

※上以外の項目がある場合、任意の項目名を設定してください。(初回のみ有効)

<input type="checkbox"/> その他1	0	<input type="checkbox"/> その他2	0	<input type="checkbox"/> その他3	1	<input type="checkbox"/> その他4	0
-------------------------------	---	-------------------------------	---	-------------------------------	---	-------------------------------	---

読み込み指定  
(チェックで読み込み)

項目名設定

列番号指定

## ④スキップ行数指定

読み飛ばし行数を0～1で設定します。

(読み込むデータにタイトル行等の無効な行が存在する場合に使用します。)

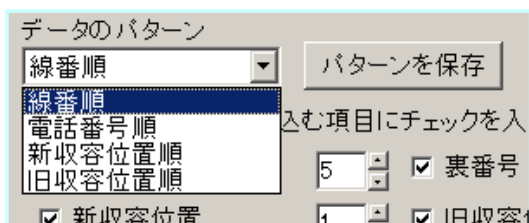
【スキップ行数指定】 ※読み込まない行数(先頭から数えて)を設定してください。

スキップ行数

## ⑤データのパターン

試験データの配列パターンをコンボボックスで指定できます。

一定の配列パターンが決められているため、複雑な設定を繰り返さなくて済みます。



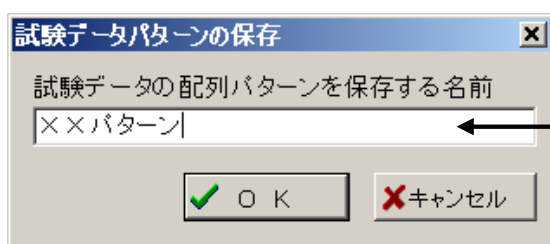
※試験データの配列パターンを削除するには、アプリケーションソフトがインストールされているフォルダ内（標準でインストールされている場合は

“C:\Program Files\二重ジャンパ自動試験装置「8」”のフォルダ内)の「ASCOT\_PTN.CSV」を開き、削除したい項目を行ごと削除してください。


⑥パターンを保存 

⑤のコンボボックスに新しい配列パターンを登録できます。

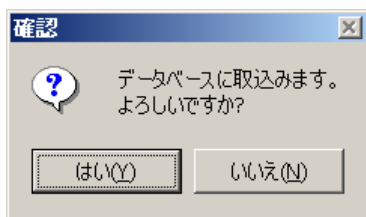
※既に登録されたパターン名であれば上書きになります。



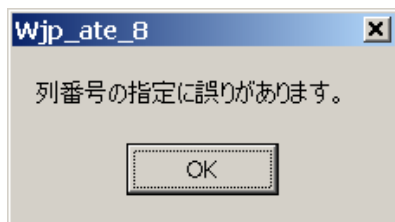
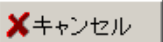
ここにパターン名を入力します。

⑦DBへ取込ボタン 

確認後、表示データをデータベースへ取り込み(入力)ます。



※列番号指定が重複していた場合に表示されます。列番号を訂正してください。

⑧キャンセルボタン 

作業をキャンセルしメイン画面に戻ります。

## ⑨作業進捗表示

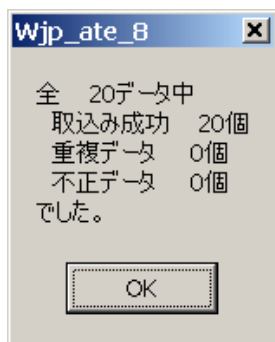
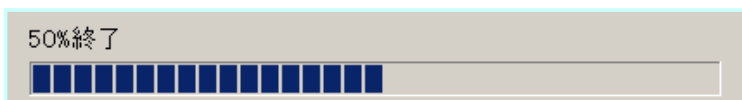
作業は

○データベースへの取り込み

○ADSL確認(ADSL収容位置を確認して回線を“ADSL”に変更します)

の順で行われ、それぞれの作業進捗を表示します。

全ての作業が終了すると、入力結果を表示します。



## ■差分データの読込

### ○差分データとは

変更、削除、追加したいデータをCSV形式ファイルに記述したものです。

変更箇所が出てきた場合、差分データ（ジャンパ施工データファイル）を取り込む事によって容易にデータの変更、削除、追加ができます。

※CSV形式ファイルへの記述は1列目に「変更」「削除」「新規」を指定してください。

（「変更」「削除」「新規」は漢字で入力して下さい。）

※電話番号は必須です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	変更	34-3012			B 02-014		00-05-26-04-2-14	C B 02-023	
2	削除	34-3325					00-05-26-04-2-12	1A 16-019	
3		34-3047			A 13-068		00-05-17-01-2-16	28	
4	新規	34-2922			B 01-097		00-05-27-02-2-10	23	
5									

○上記のCSV形式ファイルを読み込むと下記のような試験データの確認フォームが表示されます。取り込みたい項目を選択し、列番号を指定してください。

試験データの確認

データのバターン  
 電話番号順 ▼ パターンを保存

DBへ取込  キャンセル

【列番号指定】 ※読み込む項目にチェックを入れ列番号を指定してください。

電話番号 2  裏番号 4  線番 5  線番2 9   
 新収容位置 7  旧収容位置 8  ADSL(加入者側) 11  ADSL(交換機側) 12   
 SLN 0  RLN 0  事業者コード 13  備考欄 14

※上以外の項目がある場合、任意の項目名を設定してください。(初回のみ有効)

その他1 0  その他2 0  その他3 1  その他4 0

【スキップ行数指定】 ※読み込まない行数(先頭から数えて)を設定してください。

スキップ行数 0

ファイルビュー: C:\#WJP8\#WJP\APPLICATION\取説.CSV

No	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
1	変更	34-3012			B 02-014		00-05-26-057	04-2-14-04	B 02-023		
2	削除	34-3325					00-05-26-020	04-2-12-13	A 16-019		
3		34-3047			A 13-068		00-05-17-125	01-2-16-28			A-
4	新規	34-2922			B 01-097		00-05-27-043	02-2-10-23			A-

データ数 4

○「DBへ取込」ボタンでデータを取り込み、メイン画面のデータベースリスト上のデータに反映されます。

## 5.6 メイン画面

■アプリケーションのメイン画面です。ここから各種機能を実行します。

### (1) 画面構成

Labels in the image:

- メインメニュー (Main Menu)
- 試験範囲設定 (Test Range Setting)
- 試験ボタン (Test Button)
- ツールバー (Toolbar)
- スクロールボタン (Scroll Button)
- 電話番号検索 (Phone Number Search)
- フォントサイズ変更 (Font Size Change)

Table Data:

ID	電話番号	表番号	回線	オフーク	新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver	試験結果	NG内容
1	34-3012		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
2	34-3325		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
3	34-3047		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
4	34-2922		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
5	34-3049		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
6	34-2352		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
7	34-2631		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
8	34-2354		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
9	34-2902		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
10	34-1504		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
11	34-2224		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
12	34-2992		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
13	34-2779		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
14	34-2991		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
15	34-1661		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
16	34-2995		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
17	34-3902		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
18	34-1519		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
19	34-3606		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
20	34-3955		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
21	34-3893		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
22	34-2998		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
23	34-2997		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
24	34-2993		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	
25	34-2732		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施	

Context Menu Items:

- 表示項目選択(F)...
- フィルタ(O)...
- レコード編集(E)...
- レコード削除(D) Ctrl+Del
- 選択データを公衆回線に変換(P)
- 選択データをオフークに変換(K)
- 共用LC設定(L)...
- サンプリング(S)...
- 試験(T)...

Status Bar:

File Name: C:\WJP8\WJP\APPLICATION\CCC.MDB  
レコード数 100

Labels for the status bar area:

- DBファイル名とレコード(データ)数を表示 (Display DB file name and record (data) count)
- ステータスバー (Status Bar)
- ポップアップメニュー (Pop-up Menu)
- データベースリスト (Database List)



## (2) ツールバー

■ ツールバーの各アイコンの機能を示します。

### (1) ファイル



① ② ③ ④

①開く	11頁
②試験データ読込	13頁
③エクスポート	48頁
④印刷	47頁

### (2) 表示



⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

⑤表示項目選択	50頁
⑥フィルタ/フィルタ解除	51頁
⑦公衆回線抽出	53頁
⑧データの並べ替え (昇順)	54頁
⑨データの並べ替え (降順)	54頁

### (3) 設定



⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰

⑩局情報	12頁
⑪通信ポート設定	10頁
⑫公衆回線に変更→画面上から選択	24頁
⑬公衆回線に変更→ファイルから	25頁
⑭オフフックに変更→画面上から選択	27頁
⑮オフフックに変更→ファイルから	28頁
⑯共用LC設定	34頁
⑰試験設定	30頁

### (4) レコード



⑱ ⑲

⑱編集	55頁
⑲削除	56頁

### (5) 試験

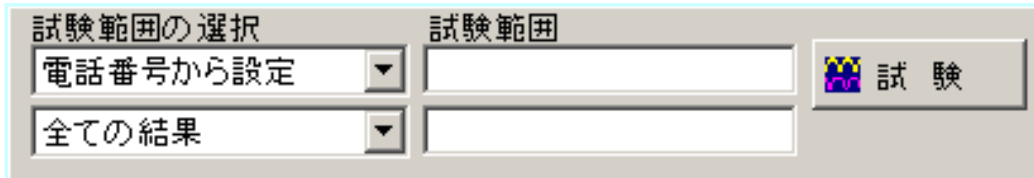


⑳ ㉑

⑳試験用端子接続確認試験	33頁
㉑データサンプリング	37頁

### (3) 試験範囲設定

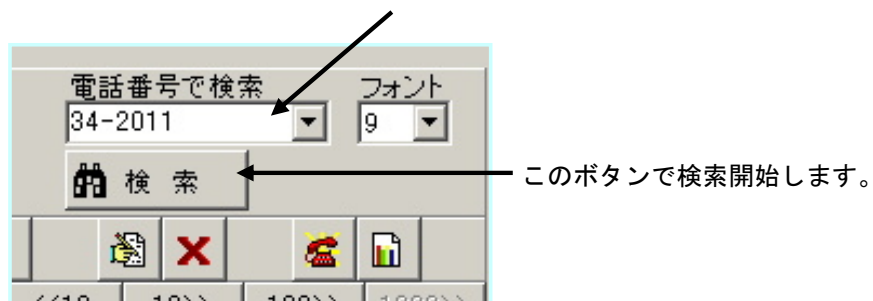
■試験範囲の設定が出来ます。詳細は40頁、41頁を参照してください。



### (4) 電話番号検索

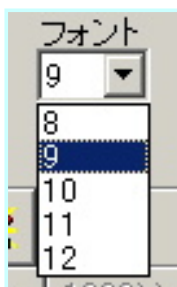
■電話番号を指定すると該当するレコード(データ)の検索ができます。

ここに電話番号を設定します。



### (5) フォントサイズ変更

■データベースリストのフォント(文字)サイズを 8P~12Pの範囲で変更できます。



## (6) データベースリスト

- 電話番号、收容位置等の試験情報、試験結果はデータベースに保存されます。  
メイン画面にそれらをリスト表示します。

項目のタイトルクリックでデータの並べ替えができます。

スクロールボタンでリストをスクロール  
「<<」 上方向 「>>」 下方向

ID	電話番号	裏番号	回線	オフトーク	新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver	試験結果
▶1	34-3012		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
2	34-3325		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
3	34-3047		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
4	34-2922		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
5	34-3049		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
6	34-2352		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
7	34-2631		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
8	34-2354		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
9	34-2902		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
10	34-1504		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
11	34-2224		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
12	34-2992		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
13	34-2779		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
14	34-2991		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
15	34-1661		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
16	34-2995		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施

File Name: C:\\*WJP8\*APPLICATION\*CCC.MDB  
レコード数 100

ここに表示しているデータの数

これらのデータを保存しているデータベースファイル名

- マウスや矢印キーで、特定のデータを選択できます。  
また、Ctrlキー + マウスクリック や Shiftキー + ↑・↓キーで複数の選択が可能です。

ID	電話番号	裏番号	回線	オフトーク	新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver	試験結果
1	34-3012		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
2	34-3325		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
3	34-3047		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	4	34-2922	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	5	34-3049	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	6	34-2352	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	7	34-2631	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	8	34-2354	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
•	9	34-2902	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
▶	10	34-1504	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	11	34-2224	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	12	34-2992	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	13	34-2779	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	14	34-2991	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	15	34-1661	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
	16	34-2995	公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施

File Name: C:\\*WJP8\*APPLICATION\*CCC.MDB  
レコード数 100

■データベースリストに表示される項目の説明です。

項目名	説明
ID	データのID番号です。
電話番号	ASCOT出力データ（ジャンパ施工データファイル）等のCSVデータファイルから入力する試験情報です。 ※電話番号は必須です。
裏番号	
線番	
線番2	
新収容位置	
旧収容位置	
ADSL（交換機側）	
ADSL（加入者側）	
RLN	
SLN	
事業者コード	
備考欄	
その他1	
その他2	
その他3	
その他4	
回線	回線の種類です。 “一般”、“公衆/ピンク”、“ADSL”、“公衆ADSL”があります。
オフトーク	回線がオフトークの場合、“O”、そうでない場合、“/”の表示になります。
新LCメーカ	“詳細モード”で試験する場合は、その回線に使われている共用LCが何であるかわからなくてはなりません。各回線に新側/旧側の共用LC情報（メーカ名とバージョン）を登録します。（→34頁参照） 初期値は“設定しない”で、試験は“簡易モード”で行われます。
新LC Ver	
旧LCメーカ	
旧LC Ver	
試験結果	試験結果の概要です。
NG内容	試験結果が“OK”でなかった場合の理由です。
信号レベル	試験時に受信した信号のレベルを[mV]単位で表します。
試験日時	試験を行った日時です。 形式は“YYYY/MM/DD hh:mm:ss”となります。

## 5. 7 回線種別設定

### 5. 7-1 公衆回線に変更

■回線種別を設定します。回線の種別毎に試験特性が異なりますので、必ず設定してください。

■回線の種別は“一般”、“公衆／ピンク”、“ADSL”、“公衆ADSL”があります。  
「ADSL 收容位置情報」があれば自動的に“ADSL”となりますが、その他の回線は“一般”となるので、回線が“公衆／ピンク”、“公衆ADSL”の場合は変更する必要があります。ここでは回線の変更方法を説明します。

※試験結果のあるデータの回線種別を変更すると、試験結果はクリアされます。

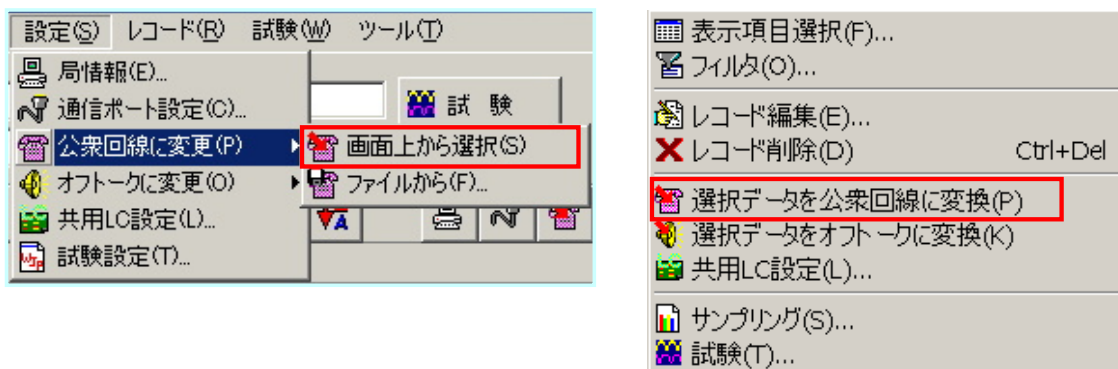
#### (1) 画面上で選択した回線を公衆回線に変更



■メイン画面データリスト上から“公衆回線”に変更したいデータを指定し、  
「設定メニュー」→「公衆回線に変更」→「画面上から選択」を選択してください。

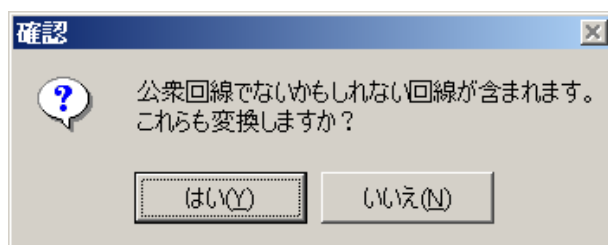
※ポップアップメニューからも変更可能です。

※“一般”を変更すれば“公衆／ピンク”に、“ADSL”を変更すれば“公衆ADSL”に変更されます。



※ポップアップメニュー

■変換の際に、收容位置情報から“公衆回線”と判断できないデータが含まれた場合、その回線を変換するか確認します。



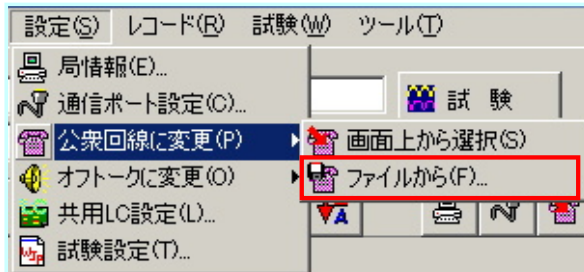
※交換機が“D70”や“DMS-10”対応の場合、「公衆回線抽出」を使用すると「公衆回線」の收容位置番号を抽出します。（詳細は53頁参照）

## (2) ファイルから公衆回線に変更

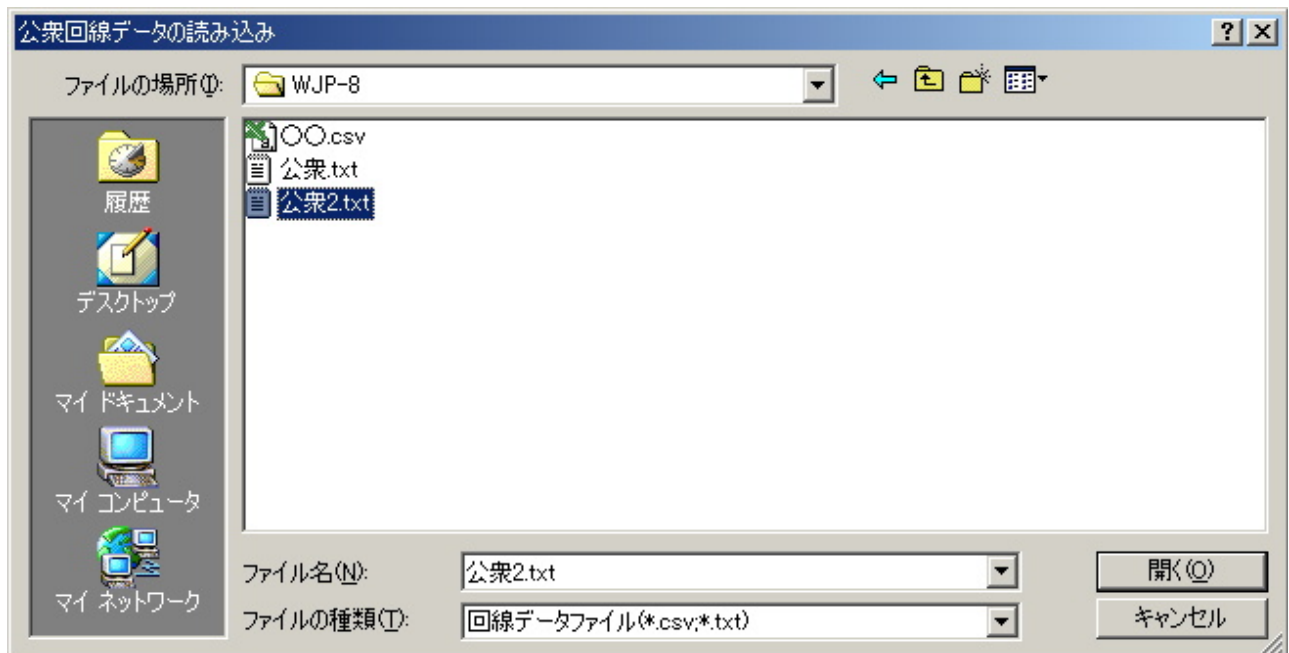


■電話番号が書かれたテキストファイルを読み込み、ファイル内に書かれた電話番号を“公衆回線”に変更します。

■「設定メニュー」→「公衆回線に変更」→「ファイルから」を選択してください。



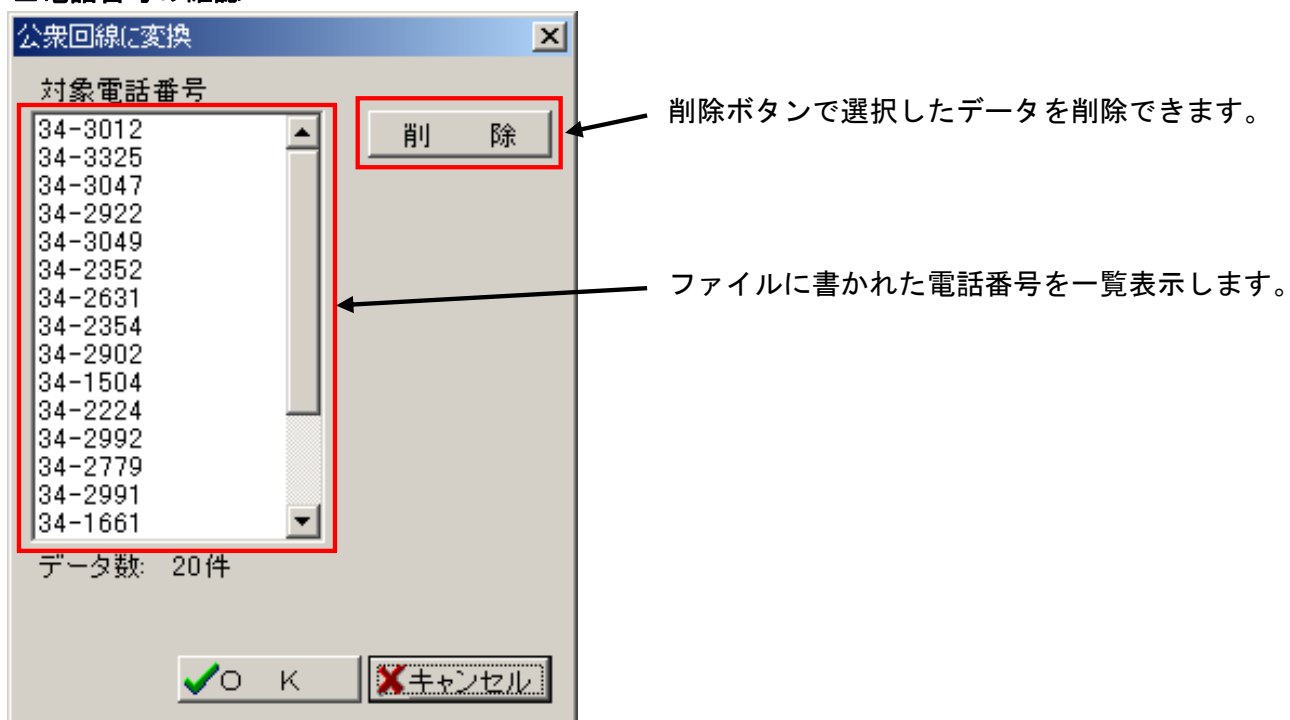
### ■ファイルを選択



※ファイル形式は“c s v”、“t x t”のテキスト形式です。

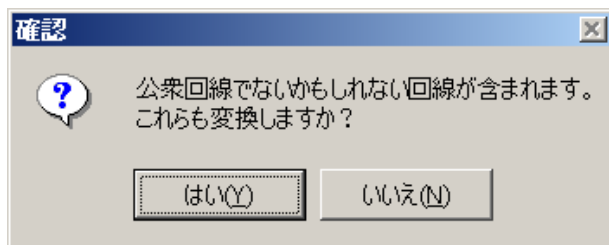
カンマ区切りテキスト (“c s v”) の場合は、行の先頭に電話番号がなければなりません。

## ■電話番号の確認



■OKボタンで表示されている回線を“公衆回線”に変更します。

■変換の際に、收容位置情報から“公衆回線”と判断できないデータが含まれた場合、その回線を変換するか確認します。



## 5. 7-2 オフトーク回線に変更

### (1) 画面上で選択した回線をオフトーク回線に変更

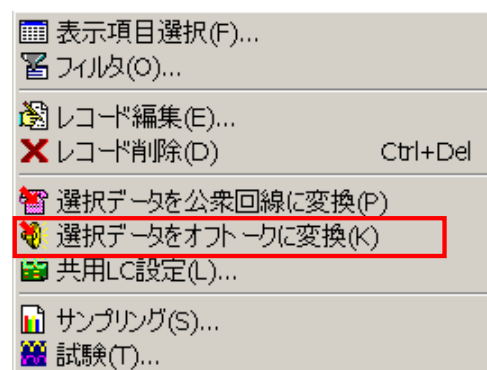
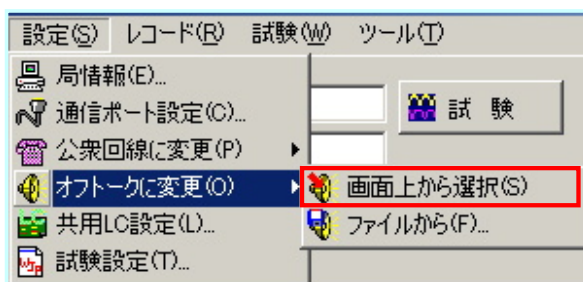


#### ■オフトークを設定します。

※ADSL回線にオフトークがある場合、それによってADSLの特性がなくなってしまうので、“ADSL”、“公衆ADSL”の場合は必ず設定してください。

■メイン画面データリスト上から“オフトーク回線”に変更したい回線を指定し、「設定メニュー」→「オフトークに変更」→「画面上から選択」を選択してください。

※ポップアップメニューからも変更可能です。



※ポップアップメニュー

■選択したデータが“オフトーク回線”に変更されます。

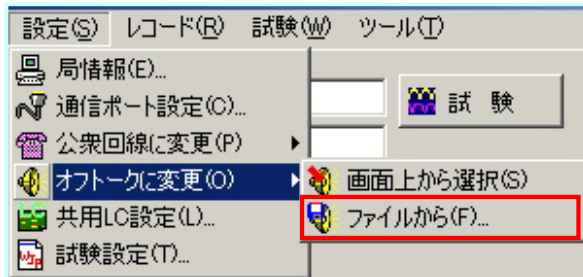


## (2) ファイルからオフトークに変更

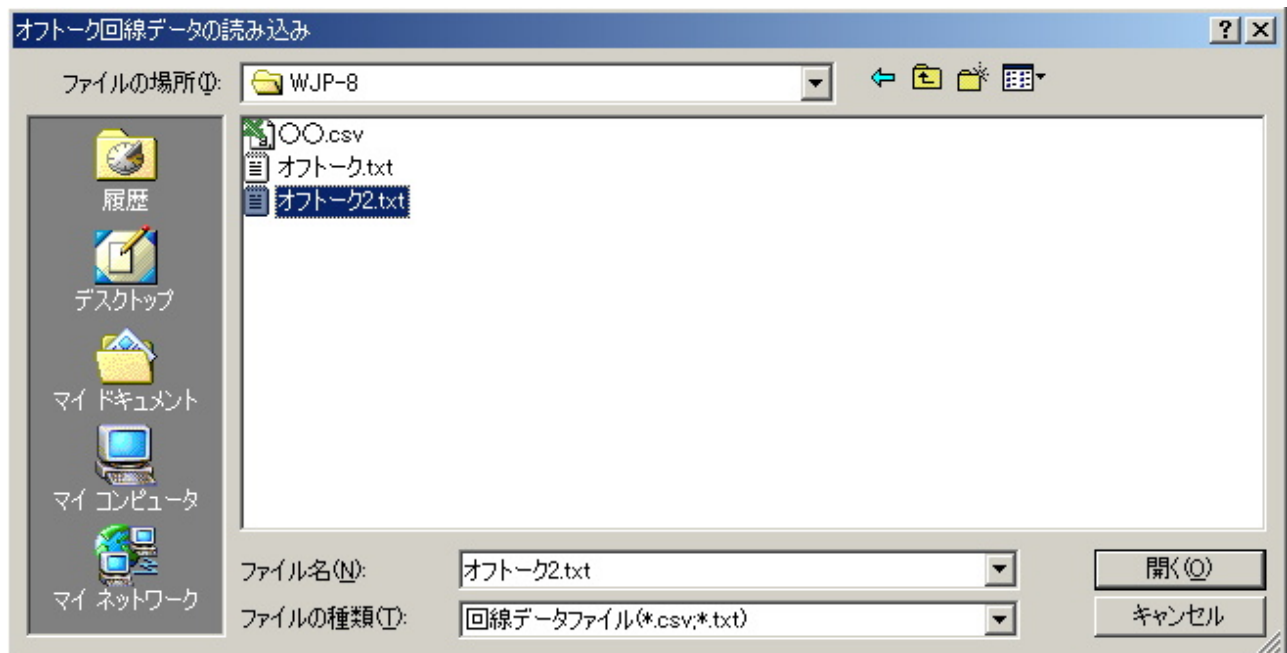


■電話番号が書かれたテキストファイルを読み込み、ファイル内に書かれた電話番号の回線を“オフトーク回線”に変更します。

■「設定メニュー」→「オフトークに変更」→「ファイルから」を選択してください。



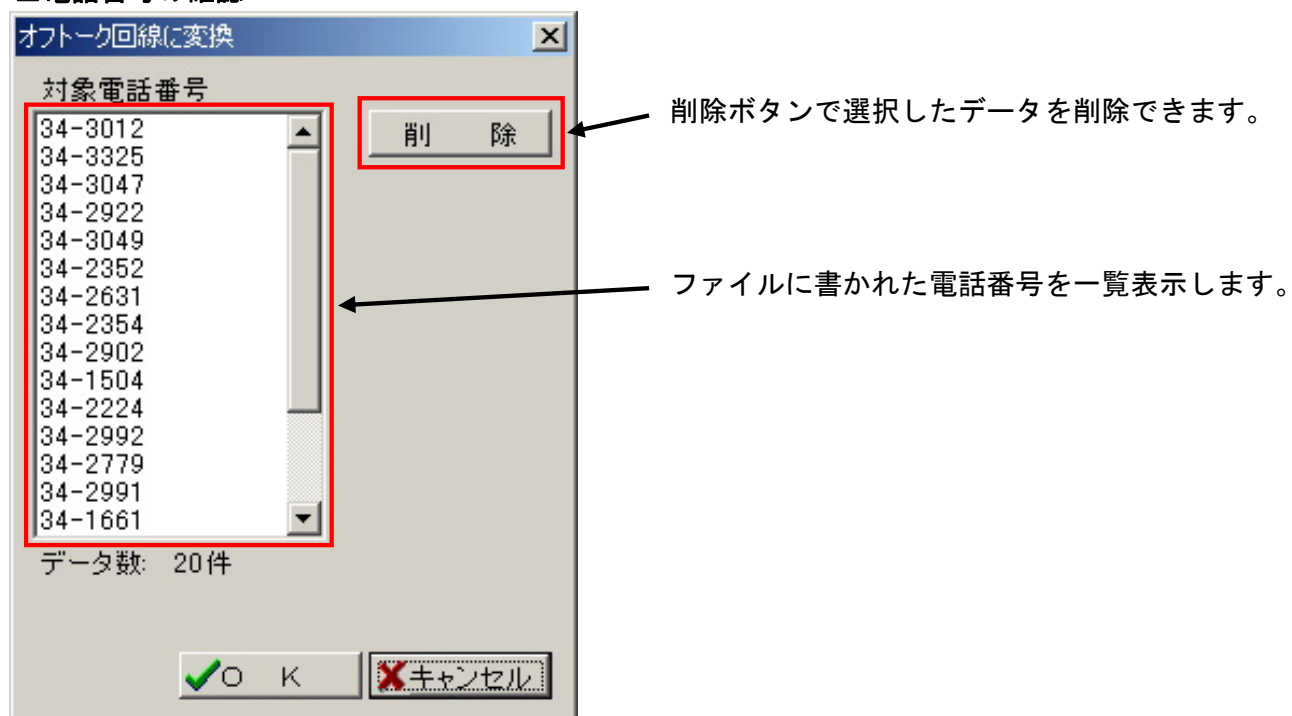
### ■ファイルを選択



※ファイル形式は“c s v”、“t x t”のテキスト形式です。

カンマ区切りテキスト (“c s v”) の場合は、行の先頭に電話番号がなければなりません。

## ■電話番号の確認

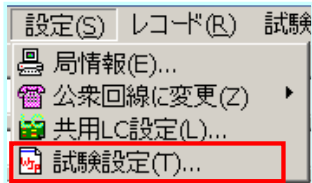


■OKボタンで表示されている回線を“オフトーク回線”に変更します。

## 5. 8 試験設定



- 試験判定基準を設定します。ジャンパのレバースや片断は信号受信レベルの大きさに判断します。ここではその“しきい値”を設定します。  
しきい値とは基準値（100%）に対し、何%までをOKとするかの値です。
- 「設定メニュー」から「試験設定」を選択してください。



- 試験モードごとのしきい値を設定してください。
  - 1) “詳細モード”での“片断判定しきい値”
  - 2) “簡易モード”での“レバース/片断判定しきい値”

例) 基準値が「300」の時、しきい値が「76%」なら、  
受信レベル「228」までがOKです。

- “しきい値”を選択する目安として、信号受信レベルのバラツキをグラフで閲覧できます。

※試験を行った後にでもしきい値を変更することができます。  
しきい値が変更された場合、試験結果は“再確認”されます。

※日立製の共用LCおよび経済化LCは他メーカーと異なり、試験信号受信レベルの減衰が大きくなっています。

日立製と他メーカーの共用LCおよび経済化LCが混在する場合は、日立製の設定だけを詳細モードにする等、試験単位を分けて試験を行った方が正確な試験が行えます。

(日立製は信号の受信レベルが低く、片断やレバースと誤判定する可能性が高い為です。)

## ■試験設定画面の説明

※試験信号受信レベルが基準の何%未満でNGとなるかしきい値を設定します。

76 1: 詳細モード (要共用LC登録とサンプリング: 片断だけ識別)

76 2: 簡易モード (非サンプリング: 片断とレバースを識別)

共用LCの設定および回線毎の試験信号受信レベルのバラつきを表示します。  
※LCと回線を選択し集計ボタンを押してください。

回線 一般  レバースの結果を表示 集計

新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver
▶設定しない	-----	設定しない	-----
沖	1.2		

新側: 設定しない ----- 旧側: 設定しない -----

OK キャンセル

### ①しきい値設定

- 1に“詳細モード”での“片断判定しきい値”、
- 2に“簡易モード”での“レバース/片断判定しきい値”を設定します。

※設定範囲は50～90%です。初期値は76%です。

※試験信号受信レベルが基準の何%未満でNGとなるかしきい値を設定します。

76 1: 詳細モード (要共用LC登録とサンプリング: 片断だけ識別)

76 2: 簡易モード (非サンプリング: 片断とレバースを識別)

### ②OKボタン/キャンセルボタン



OKボタンで(しきい値の)設定変更を確定します。  
この場合、試験結果の再確認が行われ、設定内容に従った試験結果となります。  
キャンセルボタンの場合は設定変更を破棄します。

## ③試験信号受信レベルのグラフ表示

試験が終了した回線の受信レベルのばらつきをグラフによって閲覧できます。  
表示したい回線を選択してください。

共有LCの設定および回線毎の試験信号受信レベルのバラつきを表示します。  
※LCと回線を選択し集計ボタンを押してください。

回線 **一般**  レバースの結果を表示 **集計**

新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver
設定しない	-----	設定しない	-----
▶ 沖	1.2		

新側: 沖 1.2 旧側: 一般  
データ数: 3390個 基準値(平均値): 229[mV] (赤がNG)

受信レベル	件数	割合
90%以上	2374件	(70%)
88 ~ 89%	0件	(0%)
86 ~ 87%	18件	(1%)
84 ~ 85%	21件	(1%)
82 ~ 83%	35件	(1%)
80 ~ 81%	93件	(3%)
78 ~ 79%	169件	(5%)
76 ~ 77%	291件	(9%)
74 ~ 75%	106件	(3%)
72 ~ 73%	81件	(2%)
70 ~ 71%	53件	(2%)
68 ~ 69%	45件	(1%)
66 ~ 67%	42件	(1%)
64 ~ 65%	28件	(1%)
62 ~ 63%	19件	(1%)
60 ~ 61%	0件	(0%)
58 ~ 59%	8件	(0%)
56 ~ 57%	4件	(0%)
54 ~ 55%	3件	(0%)
52 ~ 53%	0件	(0%)
50 ~ 51%	0件	(0%)
0 ~ 49%	0件	(0%)

- a) グラフ表示するデータの共用LCおよび経済化LCを指定します。  
“簡易モード”のデータを表示する場合、“設定しない”を選びます。
- b) グラフ表示するデータの回線種別をコンボボックスで設定します。
- c) (詳細モードで)レバースデータのレバース/レバース片断の区分けを見たい場合、  
チェックします。
- d) “集計ボタン”で、a)~c)の設定に該当する(信号受信レベル)データを集計し、グラフを  
表示します。
- e) 表示しているグラフに関する情報を表示しています。
- f) 試験信号受信レベルのバラつきを表すグラフです。(“基準値”が100%)  
前述の“しきい値”の設定にあわせてOK/NGが色分け(赤がNG)されます。

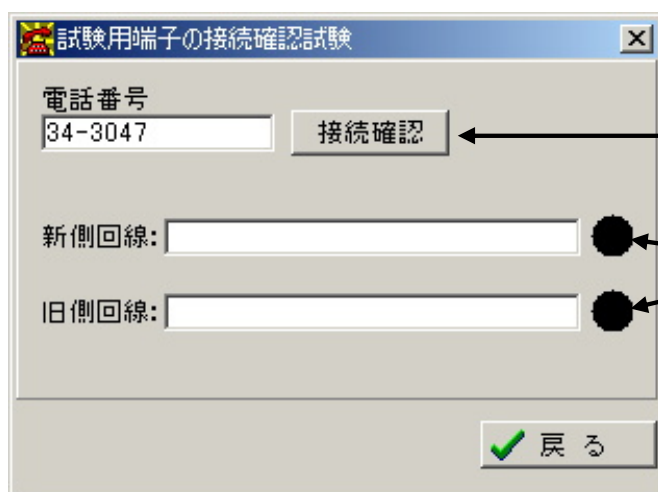
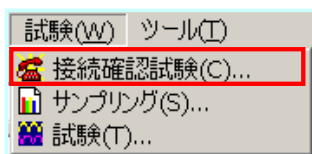
※ADSL回線でオフトーク有りのデータは一般回線として扱われます。  
また、公衆ADSLでオフトーク有りは公衆/ピンクとして扱われます。

※閲覧したいデータに共用LCおよび経済化LCが設定されてあっても、“サンプリング”が  
されていない場合は、“簡易モード”のデータとして扱われます。

## 5. 9 試験用端子接続確認試験



- 新側／旧側試験用端子の正常性を確認します。
- 「試験メニュー」から「接続確認試験」を選択してください。  
メイン画面上で指定の回線を選択していると、その電話番号で行えます。



※左欄に電話番号を設定し、このボタンで開始します。

※インジケータ  
試験の結果によってインジケータの色が変わります。

### ■接続確認試験の結果

表 示	意 味	インジケータ
正常に接続できました	接続確認試験は良好です。	緑
電池(48V)無し / L1-L2のレバース	回線上で電池(DC-48V)が検出されない。 (モジュラーコード抜け、オーダーミス等) またはL1-L2の極性が逆です。	赤
ダイヤル前にDTが来ない	オフフックしてもDT(400Hz連続音)が検出できません。	赤
加入者が話中	お客様話中です。	黄
試験対象外(オーダー無し)	サービスオーダーが登録されていません。	白
ダイヤル後にBT以外を受信	ダイヤル後、L1-L2極性が反転せず、 音声を受信しました。	赤

※試験中に“電池(48V)無し / L1-L2のレバース”、“ダイヤル前にDTが来ない”が発生した場合、試験終了となります。接続確認試験で確認してください。

## 5. 10 共用LC設定



※対象：「詳細モード試験」のみ

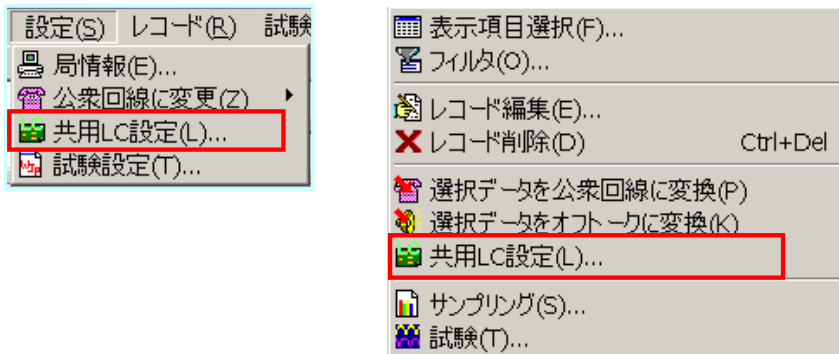
■回線の共用LCおよび経済化LCを設定します。

詳細モード試験を行う場合、共用LCおよび経済化LC毎に特性が異なるため、共用LCおよび経済化LCの設定が必要です。

※アプリケーションソフト上のメニューの「共用LC設定」は共用LCのみでなく、経済化LCの設定もできます。

※“簡易モード”で試験を行う場合、共用LCおよび経済化LCの設定は必要ありません。

■メイン画面で対象回線を選択し、「設定メニュー」から「共用LC設定」を選択してください。



※ポップアップメニュー

■この他に共用LC設定画面では以下のことを行えます。

○共用LCおよび経済化LCの新規登録、及び登録データの修正、削除、それらの閲覧。

○サンプリングボタンでサンプリングを行い、サンプリングに成功したデータの波形をグラフで閲覧。

※サンプリングは、詳細モードで試験を行う場合、正常/レバース判定の基準値を求めるために行います。これは回線種別毎（一般、公衆/ピンク、ADSL）に行います。（→37頁参照）

※共用LCおよび経済化LCを変更すると、試験結果はクリアされます。

■共用LC設定画面

ID	LCメーカー(新)	LCバージョン(新)	LCメーカー(旧)	LCバージョン(旧)	Level(一般)	Level(公衆)	Level(ADSL)
1	設定しない	-----	設定しない	-----	0	0	0
3	沖	1.2			610	615	434

① 表の行

② 新しいLC登録

③ 波形を見る

④ 旧側交換機: RLCM / 新側交換機: MHN-S

⑤ サンプリング

⑥ 波形を見る

⑦ OK

※詳細モードの場合は回線に共用LCを設定しサンプリングを行ってください。  
簡易モードの場合は「1」の「設定しない」を選んでください。

## ■ 共用 LC 設定画面の説明

### ① 登録データ一覧

登録された共用 LC および経済化 LC を一覧表示します。  
 共用 LC および経済化 LC のメーカー名及びバージョン、サンプリングの結果（信号受信レベル）が表示されます。  
 回線をメイン画面で指定し、OK ボタンをクリックすると指定した回線に共用 LC または経済化 LC が割り当てられます。

※簡易モードで試験する際は、1 の“設定しない”を選択します。

※詳細モードで試験する際は適当な共用 LC および経済化 LC を選択してください。

ID	LCメーカー(新)	LCバージョン(新)	LCメーカー(旧)	LCバージョン(旧)	Level(一般)	Level(公衆)	Level(ADSL)
1	設定しない	-----	設定しない	-----	0	0	0
3	沖	1.2			610	615	434

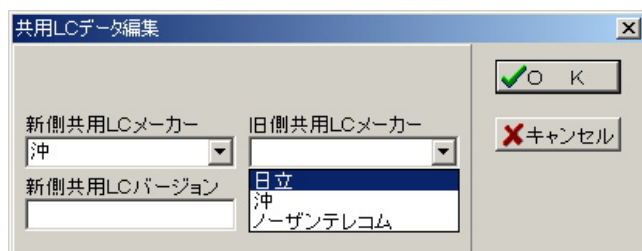
### ② 新しい LC 登録 新しい LC 登録

新規に共用 LC および経済化 LC を登録します。

### ③ LC 情報編集 LC 情報編集

(①登録データ一覧で) 選択した共用 LC および経済化 LC 情報を編集します。

#### 共用 LC データ編集



共用LCデータ編集

新側共用LCメーカー: 沖

旧側共用LCメーカー: 日立

新側共用LCバージョン:

旧側共用LCバージョン: 沖  
ノーザンテレコム

OK

キャンセル

新側、旧側の共用 LC および経済化 LC のメーカー及びバージョンを入力し、OK ボタンで確定します。

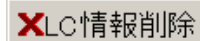
(メーカー名はコンボボックスで選択または新規書込で行います。)



※共用 LC および経済化 LC 情報を設定する際、LC バージョンに誤りがある場合に表示されます。再度 LC バージョンを確認してください。



## ④ LC情報削除



(①登録データ一覧で) 選択した共用LCおよび経済化LC情報を削除します。

## ⑤ サンプリング



“詳細モード” で試験する際の良否判定基準を得るために、サンプリングを行います。

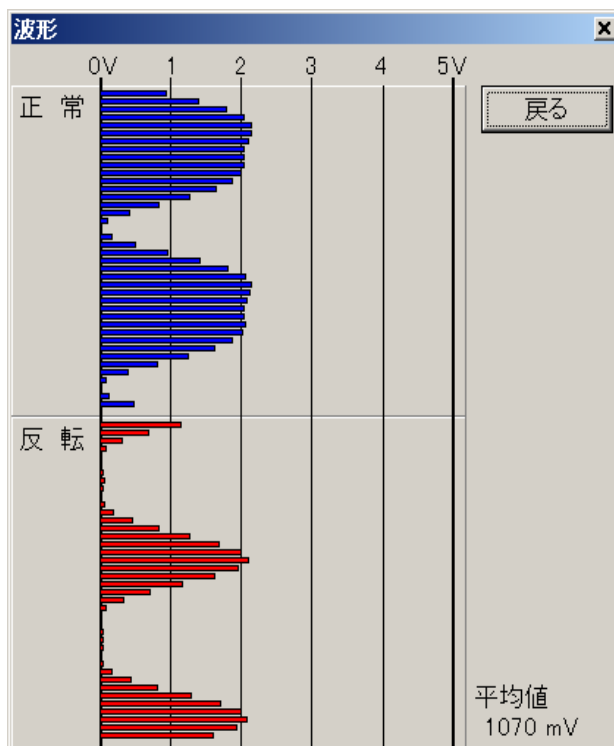
(→37頁参照)

## ⑥ 波形を見る

(①登録データ一覧で) 選択した共用LCおよび経済化LC情報の、“サンプリング” によって得た信号の波形を閲覧します。




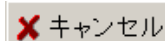
※右側のコンボボックスで対象の回線種別を選択します。



※閲覧できる波形は、詳細モードで使われる“測定波形”です。

※画面右下の“平均値”は測定波形の平均値で“受信レベル”とは異なります。

## ⑦ OKボタン/キャンセルボタン

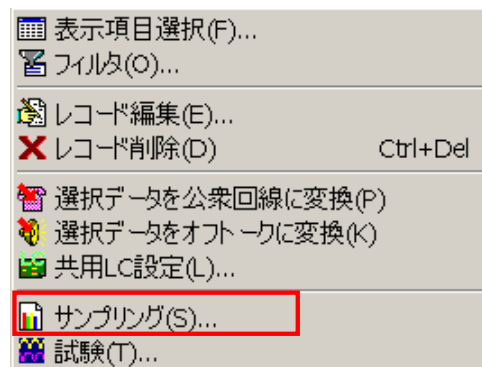
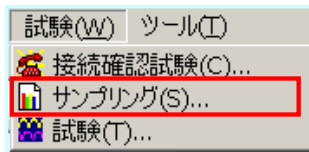
OKボタンで(登録データ一覧で) 選択した共用LCおよび経済化LC情報を、メイン画面で指定した回線に割り当てます。

キャンセルボタンの場合は割り当てを行いません。

## 5. 1.1 データサンプリング



※対象：「詳細モード試験」のみ



※ポップアップメニュー

■サンプリングを行います。

サンプリングとは、“詳細モード”で試験を行うために行い、ジャンパのノーマル/レバースの判定基準を求めるものです。**(予め良線を準備する必要があります。)**

サンプリングは共用LCおよび経済化LCの種類毎、また回線種別毎（一般、公衆/ピンク、ADSL）に行います。

このサンプリングを行わないと試験回線に共用LCおよび経済化LCを設定しても、“簡易モード”で試験が行われます。

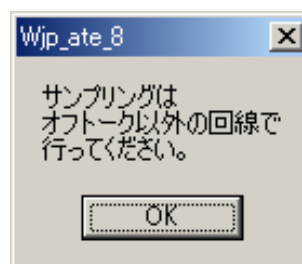
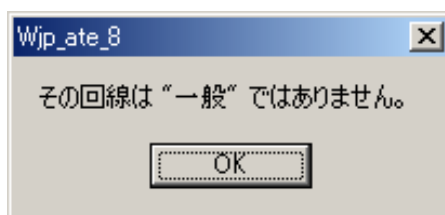
■サンプリングする回線を指定し、「試験メニュー」→「サンプリング」を選択してください。

※共用LC設定フォーム、ポップアップメニューからも選択可能です。

※“簡易モード”（LCを設定しない）の場合は、サンプリング不可です。

※一度サンプリングしたデータが（再実行によって）書き変わると、試験結果の再確認が行われます。（ただし、試験条件が異なった場合は、対象データの試験結果がクリアされます。）

※対象電話番号が、設定した回線（種別）でない場合や回線にオフトークが有る場合は、エラーとなります。



## ■試験用端子の接続確認試験画面

※対応交換機と対象共用LCまたは経済化LCを表示

※回線種別を設定

※対象電話番号を設定

※サンプリングを開始

※結果を表示  
正常終了の場合、ダブルクリックで測定波形を閲覧可能  
(→36頁参照)

## ■サンプリングの結果

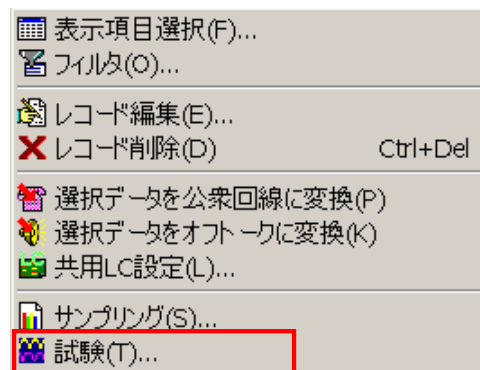
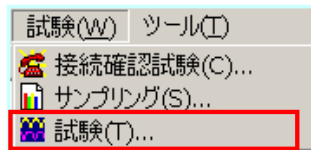
表 示	意 味
正常に終了しました	正常にサンプリングが終了。
試験端子不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回線上で電池(DC-48V)が検出されない。(モジュラーコード抜け、オーダーミス等)</li> <li>・L1-L2の極性が逆。</li> <li>・オフフックしてもDT(400Hz連続音)が検出できない。</li> </ul> ※要接続確認試験
加入者話中	お客様話中。
試験対象外	サービスオーダーが登録されていない。
ジャンパ無し	対象回線にジャンパ無し。
サンプリング失敗	測定波形の受信波形が好ましくない。

※試験端子不良が発生した場合は接続確認試験で確認してください。

※装置とのインターフェースに失敗すると、通信エラーメッセージがでます。(→45頁参照)

RS-232C接続及び、COMポート設定を確認してください。

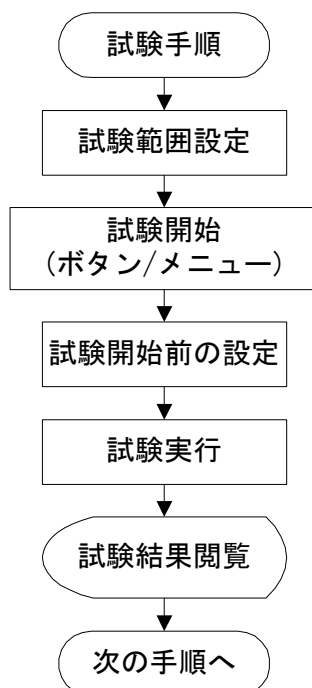
## 5. 1 2 試験実施

 試験


※ポップアップメニュー

- 設定した試験範囲で試験を開始します。（試験範囲の設定は次項参照）
- 試験中の場合は、試験を途中終了します。

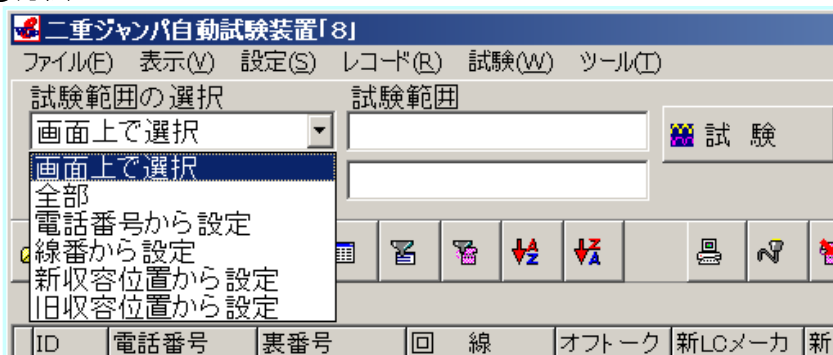
- 試験は下記フローの手順で行います。



## ■試験範囲の設定

試験範囲を以下の項目で設定します。

### ①方法



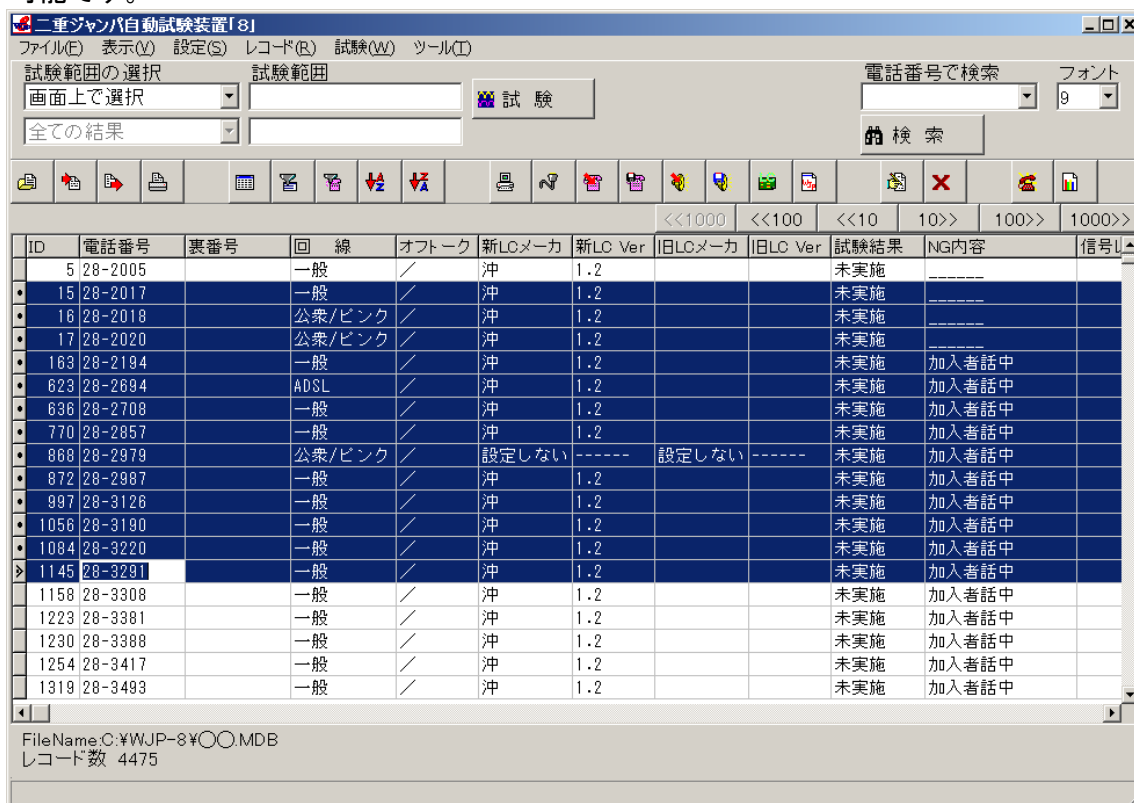
範囲選択方法をコンボボックスで選択します。

- a) 画面上で選択（下記）
- b) 全てのデータを対象とする。
- c) 電話番号、線番、收容位置から範囲選択する。（→次頁参照）

a)の画面上で選択 はメイン画面のデータベースリスト上で行います。

マウスや矢印キーで、特定のデータを選択できます。

また、Ctrlキー + マウスクリック や Shiftキー + ↑・↓キー で複数の選択が可能です。



## ②試験結果



①で全部、または電話番号、線番、收容位置から設定を選択した場合、試験対象を試験結果から絞り込みます。

- a) 全ての結果
- b) NGと未実施回線
- c) NG回線
- d) 未実施回線

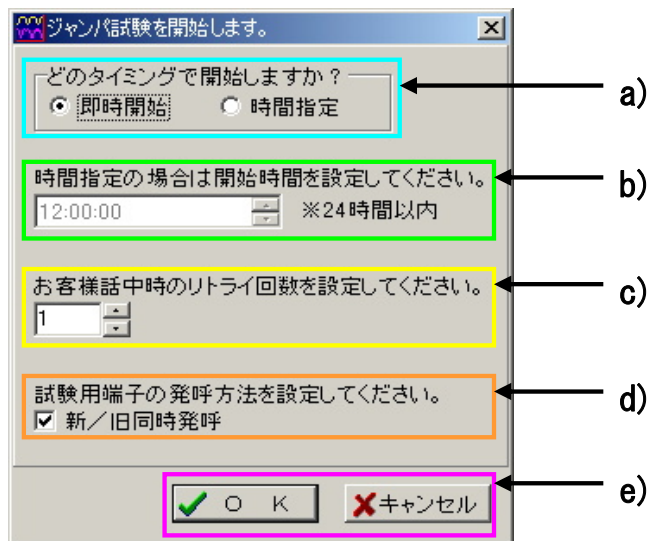
## ③試験範囲



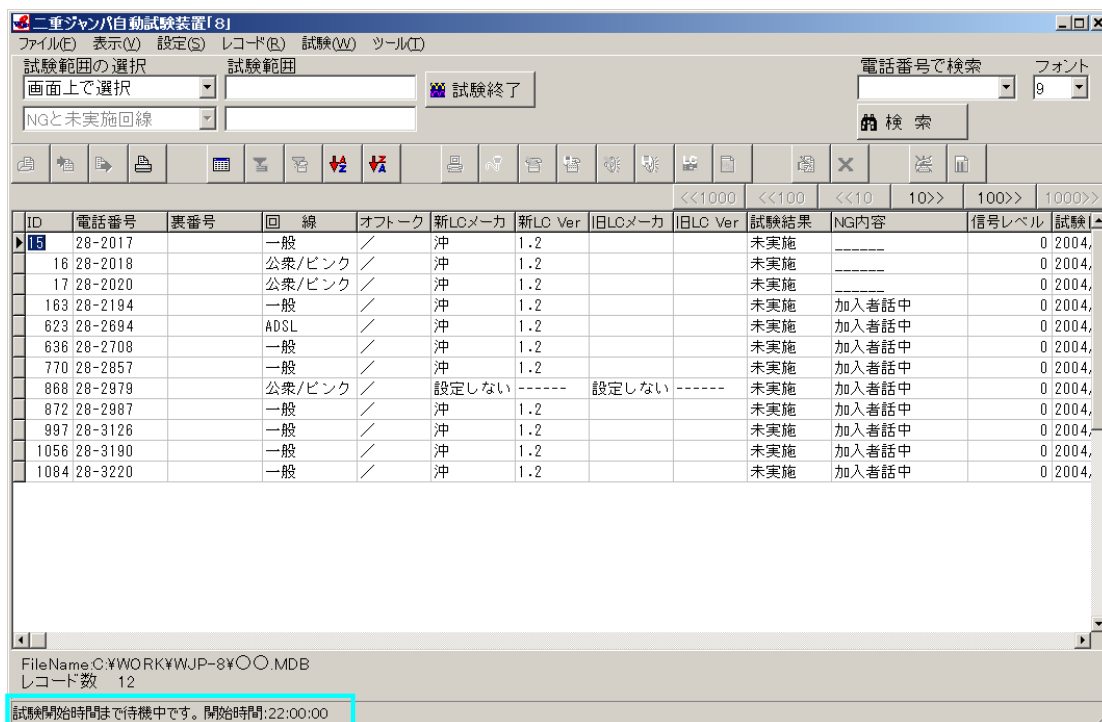
①で電話番号、線番、收容位置から設定を選んだ場合、試験対象範囲を入力します。上の例では電話番号が 28-0000 ~ 28-9999 の範囲です。(ただし、データベース上に無い回線は試験しません。)

## ■試験開始前の設定

試験開始前に以下の設定を行います。



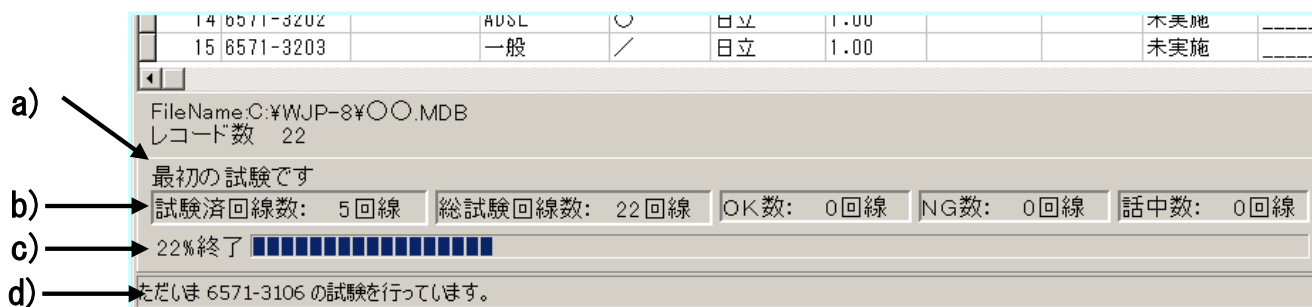
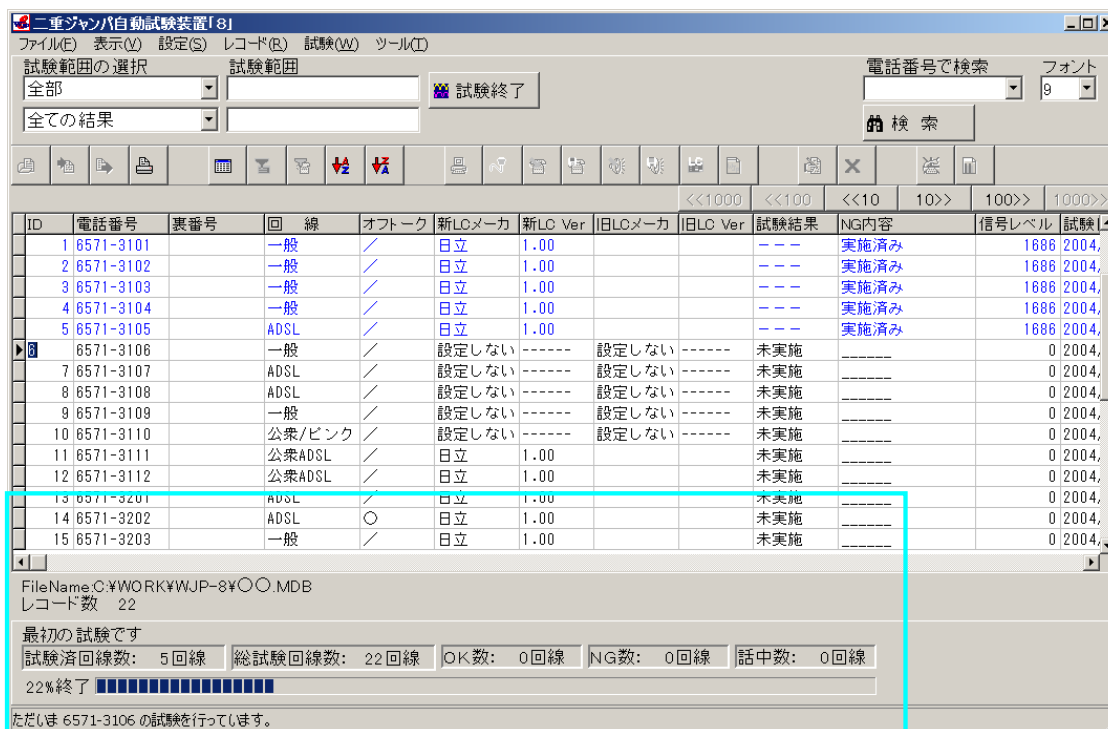
- 試験開始タイミングです。即時開始か、開始時間指定が選択します。
- a) で時間指定した場合、開始時間を24時間以内で設定します。
- お客様話中回線を何回まで再試験するか設定します。(最大5回)
- 新/旧試験用端子の発呼方法を設定します。同時発呼(チェック)か個別発呼を選びます。同時発呼だと試験時間が短縮できます。
- OKボタンを押すと試験を開始します。(開始時間指定の場合は設定時刻まで待機) キャンセルボタンを押すと試験キャンセルとなります。



※時間指定した場合、試験開始時間まで待機します。(中断可能)

## ■試験実行中

試験中はメイン画面下部に試験の実施状況が表示されます。



- 最初の試験か、(お客様話中の)リトライ試験(何回目)かを表示
- 試験済み回線数、総試験回線数、OK回線数、NG回線数、お客様話中数
- 進捗率 (パーセンテージとプログレスバー)
- 現在試験実行中の回線

※OK回線数とNG回線数は指定した全回線の試験が一通り終了しないと正確な数が出ません。  
 ※ASCO T出力データより「裏番号」を読み込んだ場合は、試験時に裏番号に対して発呼します。



## ■試験が終了した場合

データベースリストには試験した回線のみ表示されています。

試験済み回線数、総試験回線数、OK回線数、NG回線数、お客様話中数が表示されます。

The screenshot shows the '二重ジャンパ自動試験装置[8]' (Double Jumper Automatic Test Device [8]) window. The window title bar includes 'ファイル(F) 表示(V) 設定(S) レコード(R) 試験(W) ツール(T)'. Below the title bar are several menu items and a search field. The main area contains a table with the following columns: ID, 電話番号 (Phone Number), 裏番号 (Back Number), 回線 (Line), オフーク (Off-hook), 新LCメーカー (New LC Manufacturer), 新LC Ver (New LC Ver), IBLCメーカー (IBLC Manufacturer), IBLC Ver (IBLC Ver), 試験結果 (Test Result), NG内容 (NG Content), 信号レベル (Signal Level), and 試験 (Test). The table lists 16 records, all with 'OK' results. Below the table, the file name is 'FileName:C:\WORK\WJP-8\O.MDB' and the record count is 'レコード数 16'. At the bottom, there are summary statistics: '試験済み回線数: 16回線' (Tested lines: 16 lines), '総試験回線数: 16回線' (Total tested lines: 16 lines), 'OK数: 16回線' (OK count: 16 lines), 'NG数: 0回線' (NG count: 0 lines), and '話中数: 0回線' (In-call count: 0 lines). A progress bar shows '100% 終了' (100% completed). A '閉じる' (Close) button is located at the bottom right, with an arrow pointing to it from the text below.

ID	電話番号	裏番号	回線	オフーク	新LCメーカー	新LC Ver	IBLCメーカー	IBLC Ver	試験結果	NG内容	信号レベル	試験
15	28-2017		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
16	28-2018		公衆/ピンク	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
17	28-2020		公衆/ピンク	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
183	28-2194		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
623	28-2694		ADSL	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
636	28-2708		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
770	28-2857		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
868	28-2979		公衆/ピンク	/	設定しない	-----	設定しない	-----	OK	-----	1686 2004,	
872	28-2987		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
997	28-3126		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
1056	28-3190		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
1084	28-3220		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
1145	28-3291		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
1158	28-3308		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	
1223	28-3381		一般	/	沖	1.2			OK	-----	1686 2004,	

閉じる

※「閉じる」ボタンを押すとメイン画面は通常の状態に戻ります。  
(データベースリストは全データ表示、試験進捗表示は非表示)

## ■試験結果 および NG内容の説明

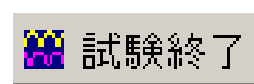
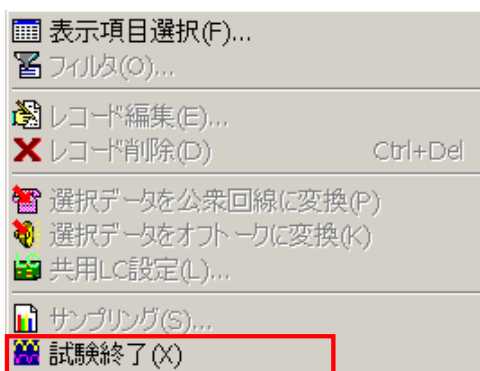
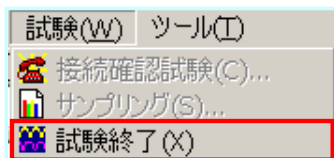
試験結果	NG内容	意味
OK		ジャンパ状態良好です。
NG	ジャンパ無し	ジャンパ無し(両線断)の回線です。
	レバースor片断	簡易モードで試験された回線で、(L1-L2の)レバースまたは片線断です。(どちらか区別はできません。)
	片断	詳細モードで試験された回線で、片線断です。
	レバース	詳細モードで試験された回線で、(L1-L2の)レバースです。
	レバース片断	詳細モードで試験された回線で、(L1-L2の)レバースで且つ片線断です。
未実施	試験用端子不良	試験用端子の不良です。 ・回線上で電池(DC-48V)が検出されない。(モジュラーコード抜け、オーダーミス等) ・L1-L2の極性が逆。 ・オフフックしてもDT(400Hz連続音)が検出できない。  ※これらが発生した場合、試験は中断します。詳細を接続確認試験で調査してください。
	試験対象外	サービスオーダーが登録されていません。
	加入者話中	お客様話中です。設定したリトライ回数分再試験が行われます。
---	実施済み	試験結果を集計(レバース/片断判定)する前の仮の表示です。装置はジャンパ試験を行いました。詳細な結果は未だ分かりません。
	レバースor片断	試験結果を集計(レバース/片断判定)する前の仮の表示です。装置はジャンパ試験を行いました。詳細な結果は未だ分かりません。詳細モードで試験が行われたので、レバースまたはレバース片断です。

※装置とのインターフェースに失敗すると、通信エラーメッセージがでて試験は中断します。RS-232C接続及び、COMポート設定を確認してください。



## ■試験終了

試験中はメニューやボタンが下記のようになり、選択すると試験を途中終了します。

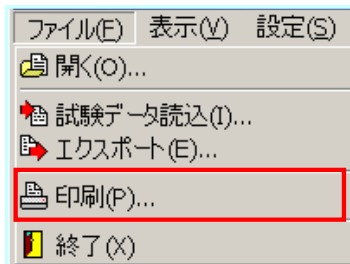


※ポップアップメニュー

## 5. 1.3 試験結果アウトプット

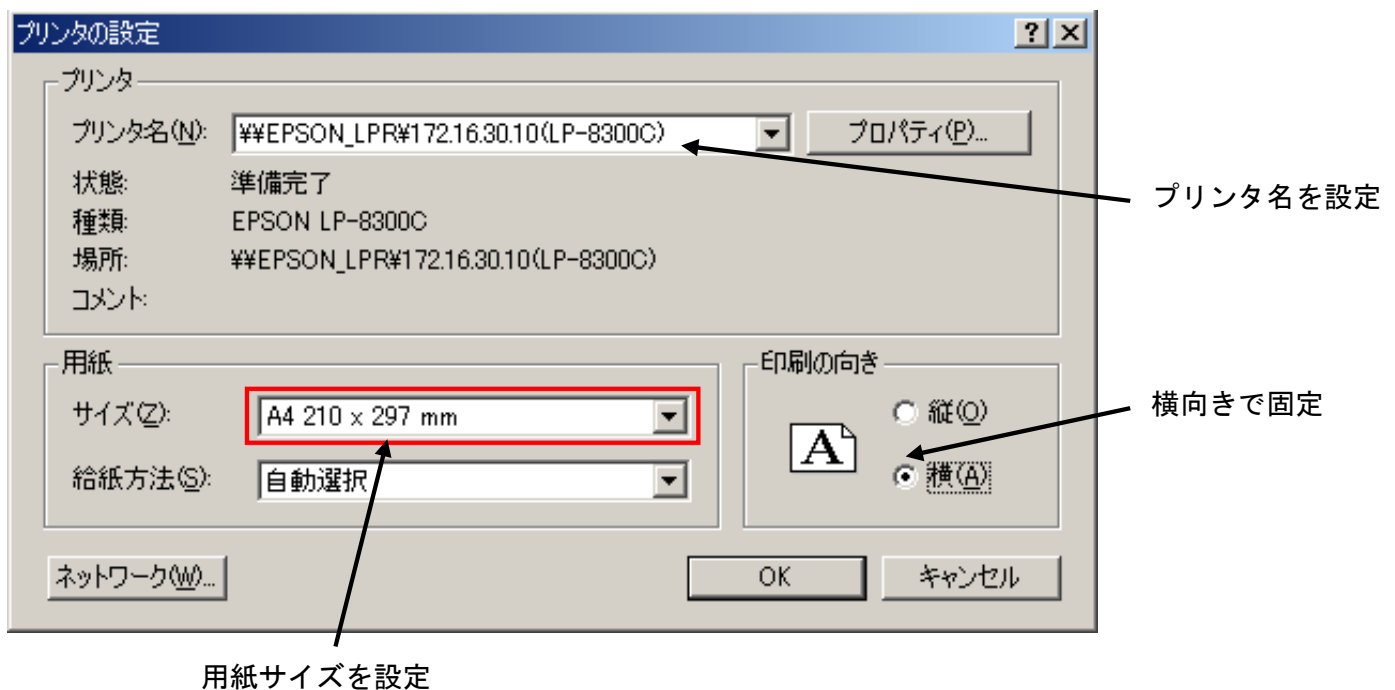


### (1) 印刷



- メイン画面のデータベースリストに表示されているデータを印刷します。
- ※リスト上で複数のデータが選択されている場合は、選択されたデータだけが対象となります。
- ※試験実行中は試験結果別の印刷が可能です。

#### ■試験結果のエクスポートダイアログ

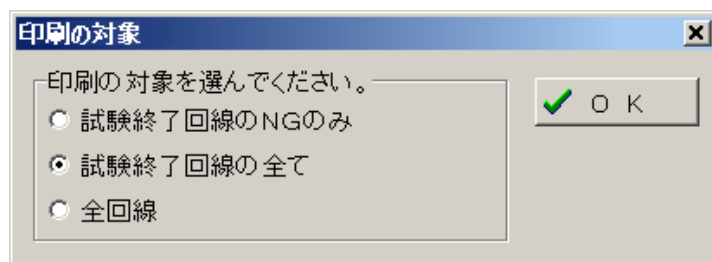


#### ■試験実行中の印刷

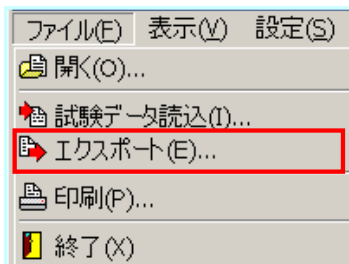
試験実行中は、下記のダイアログで印刷対象をしばりこむことができます。

- 試験が終了し、かつNGだった回線
- 試験が終了した全ての回線
- 全ての試験対象

#### ■印刷の対象ダイアログ

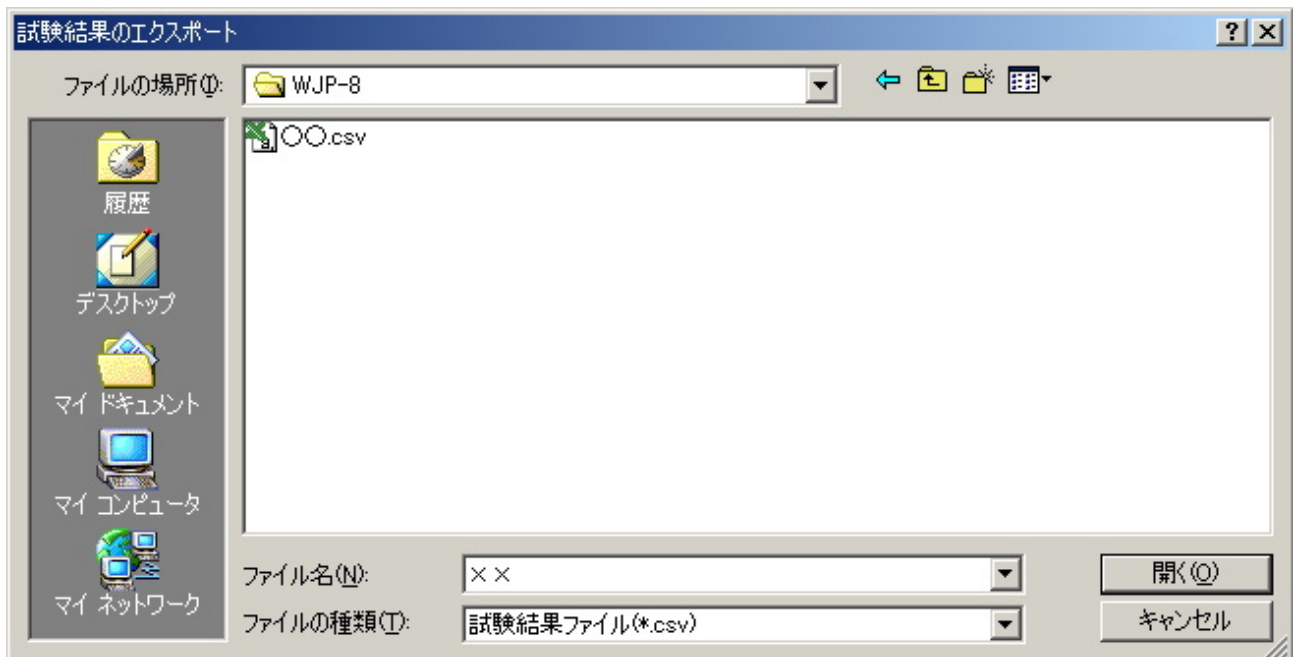


## (2) エクスポート



- メイン画面のデータベースリストに表示されているデータをCSV形式データファイルにエクスポート(移出)します。  
※リスト上で複数のデータが選択されている場合は、選択されたデータが対象となります。  
※CSV形式とは、カンマ区切りテキストです。

### ■ファイル名を設定

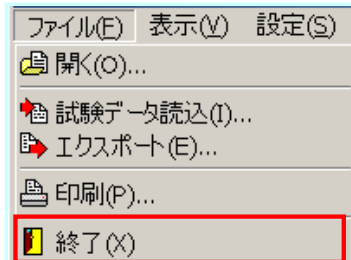


エクスポートで作成するファイル名を記述してください。

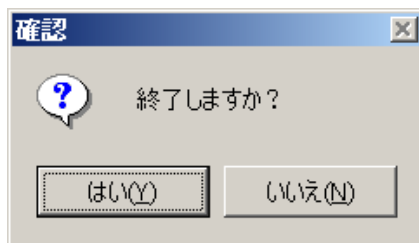
## 6. その他の機能

- 「5. アプリケーションソフトの操作」で説明しなかった機能について説明します。

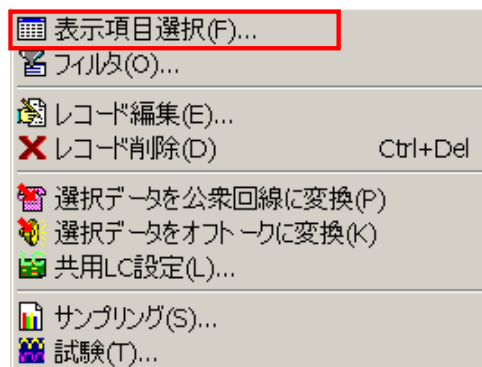
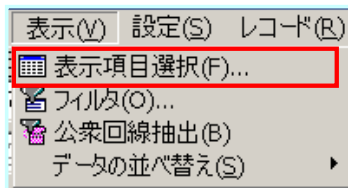
### 6. 1 終了



- 終了確認後、アプリケーションを終了します。  
※試験実行中は終了できません。(試験を終了してから行ってください。)



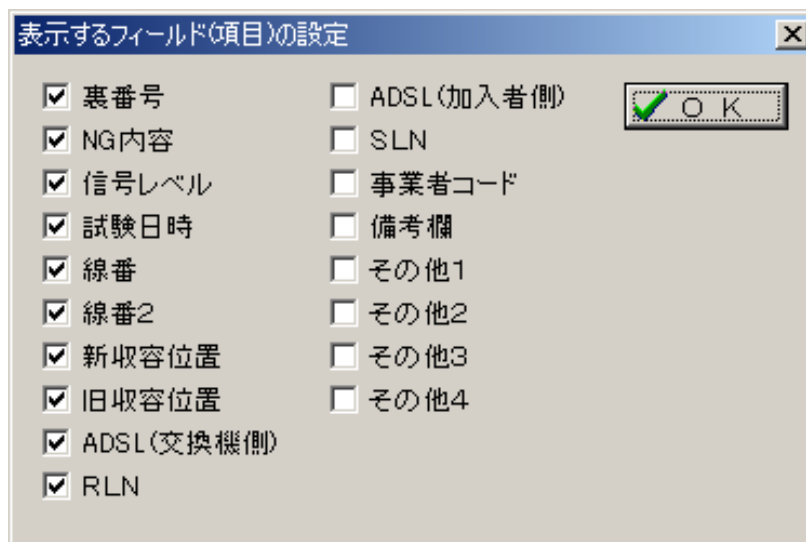
## 6. 2 表示項目選択



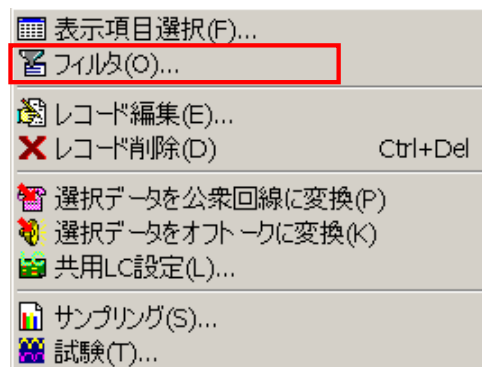
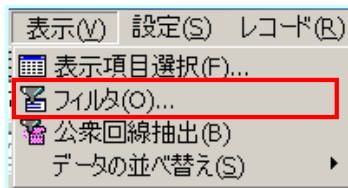
※ポップアップメニュー

■メイン画面データリストの各項目の表示／非表示を設定します。

※ I D、電話番号、回線、L C、試験結果の5項目は“非表示”にすることができません。

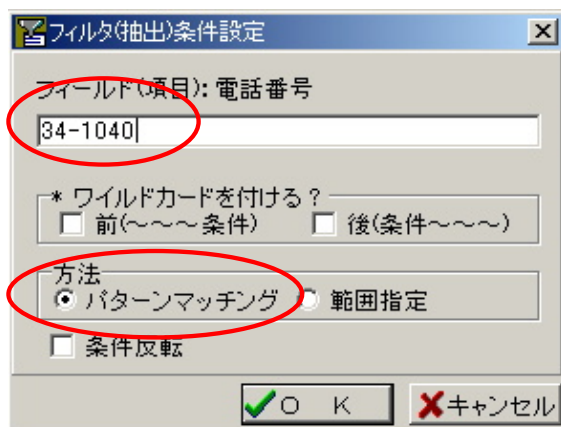


## 6. 3 フィルタ／フィルタ解除

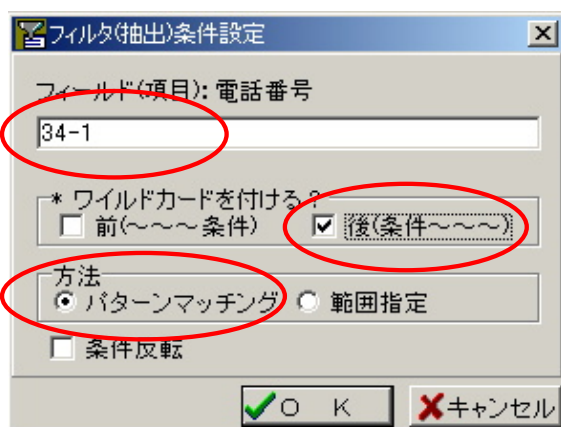


※ポップアップメニュー

- 条件を設定し、（メイン画面データリスト上に）その条件に合ったデータを抽出、または、その解除を行います。
- ※抽出方法には、“パターンマッチング”と“範囲指定”の2種類があります。
- ※設定はデータリスト上で目的の項目を選択（クリック）してから行います。



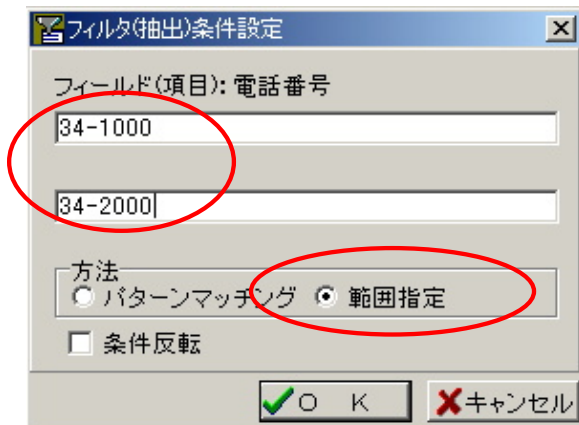
- 例1：パターンマッチング  
電話番号が「34-1040」のデータだけを抽出します。



- 例2：パターンマッチング+ワイルドカード  
電話番号が「34-1×××」のデータを抽出します。

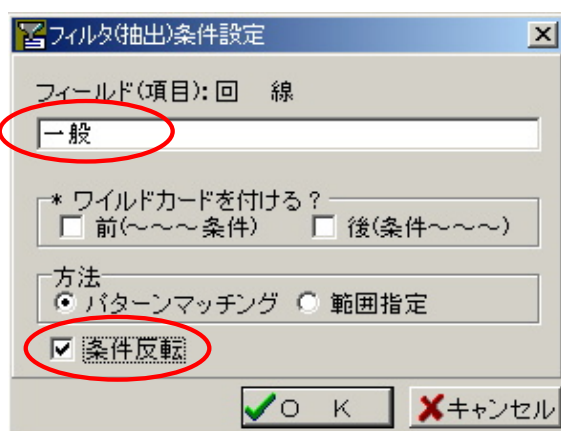
※パターンマッチングでワイルドカードを前に付けると“条件”で終わるデータ  
後に付けると“条件”で始まるデータ  
両方だと “条件” を含むデータ  
付けないと “条件” と一致するデータの抽出を行います。





## 例 3 : 範囲指定

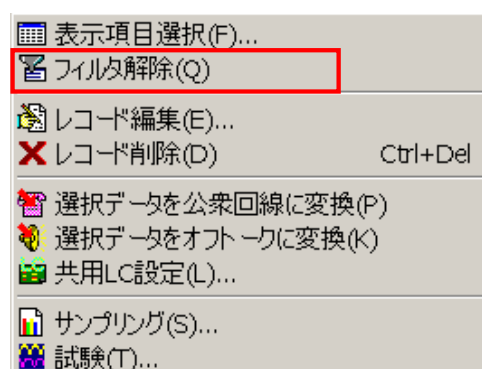
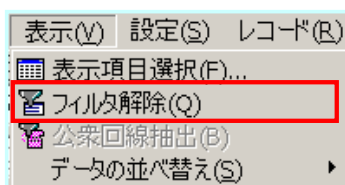
電話番号が  
「34-1000 ~ 34-2000」  
の範囲のデータを抽出します。



## 例 4 : 条件反転

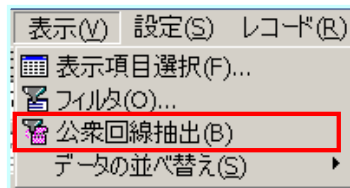
回線が「一般」以外のデータを抽出します。

- フィルタがかかった状態だと、メニューやボタンは下記のようになり、押すとフィルタが解除されます。



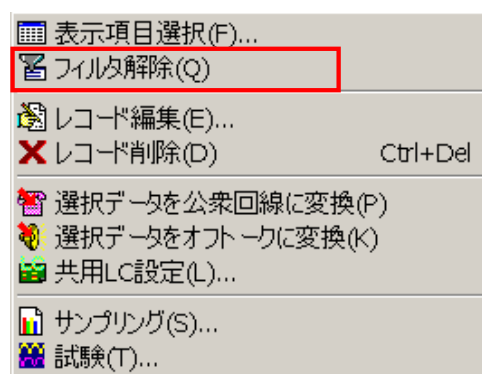
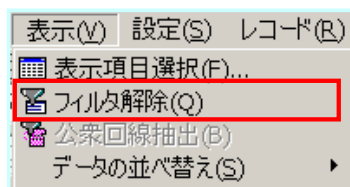
※ポップアップメニュー

## 6. 4 公衆回線抽出



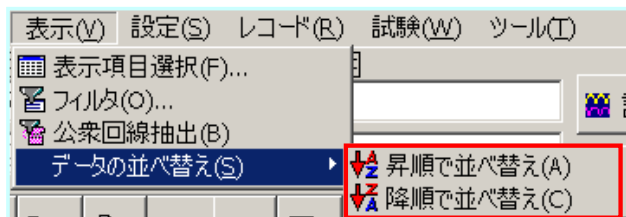
- “公衆回線” 収容位置番号を(メイン画面データリスト上に) 抽出します。  
※この機能は対応交換機が、D70、改良D70、DMS-10、RLCMの場合のみ有効です。

- “抽出” を解除する場合は、  
表示メニュー → フィルタ解除 (→51頁) を押します。



※ポップアップメニュー

## 6. 5 データの並べ替え



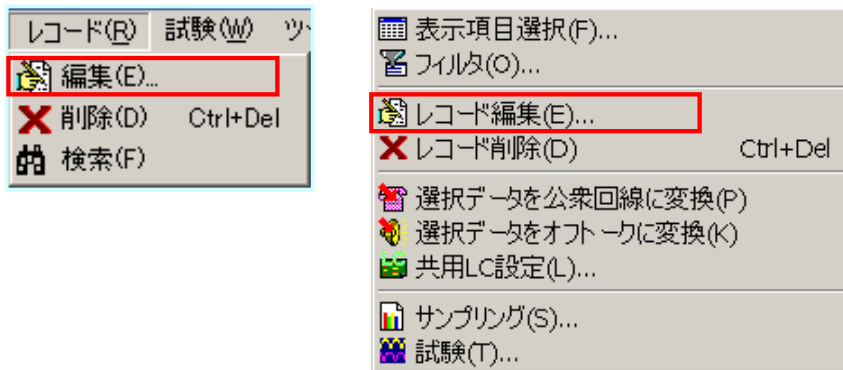
- (メイン画面データリスト上で) 選択した項目上のデータ並べ替えを行います。  
並べ替えは 昇順または降順で行います。

- メイン画面データリストの“カラム(タイトル)クリック”でも並べ替えが可能です。  
最初のクリックで昇順並べ替えを行い、同じカラムを再度クリックすると降順並べ替えを行います。

カラム(タイトル)

ID	電話番号	裏番号	回線	オプーク	新LCメーカー	新LC Ver	旧LCメーカー	旧LC Ver	試験結果
1	34-3012		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
2	34-3325		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
3	34-3047		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
4	34-2922		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
5	34-3049		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
6	34-2352		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
7	34-2631		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
8	34-2354		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施
9	34-2902		公衆/ピンク	/	沖	1.2			未実施

## 6. 6 編集



※ポップアップメニュー

■メイン画面データベースリスト上で選択したレコードの編集を行います。

※対象レコードのダブルクリックでも編集が行えます。

※“回線”または“オフトーク”が変更された場合、その回線の試験結果は消去されます。

レコードの編集

ID: 1

新側 交換機: MHN-S  
共用LC: 沖  
1.2

旧側 交換機: RLCM  
共用LC:

電話番号: 34-3012

回線: 公衆/ピンク

線番: C 08-034

新收容位置: 00-05-14-000

ADSL(交換機側):

RLN:

事業者コード:

その他1:

その他3:

裏番号:

オフトーク

線番2:

旧收容位置: 01-1-00-29

ADSL(加入者側):

SLN:

備考欄: RLCM收容

その他2:

その他4:

OK キャンセル

※IDと電話番号は変更不可です。

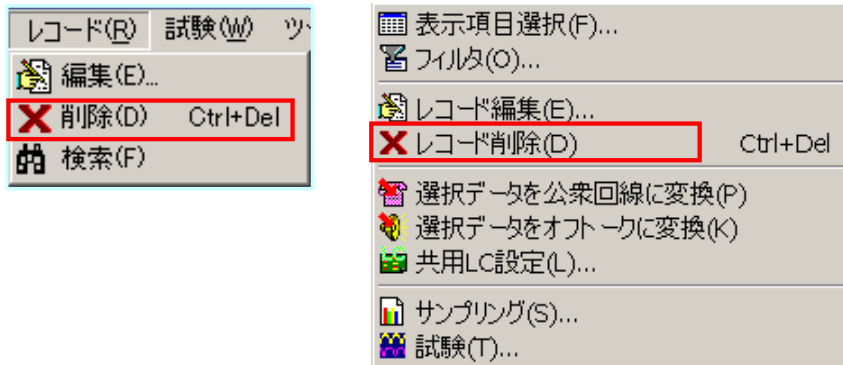
※オフトークはチェックで“有り”です。

※ADSL收容位置がある回線を“一般”  
“公衆/ピンク”へは変更できません。  
また、その逆の場合も同様です。

※收容位置情報から、公衆回線と判断できない  
回線を公衆回線に変更しようとした場合、  
ワーニングメッセージが出て確認します。

※OKボタンで変更を確定、  
キャンセルで破棄です。

## 6. 7 削除



※ポップアップメニュー

- メイン画面データベースリスト内で選択したレコード（複数可能）を削除します。
- ※Ctrl+Delでも削除が可能です。
- ※削除実行前に下記ダイアログで実行確認を行います。



## 7. こんなときは

Q 0 1 電源が入らない。

A 0 1 A C電源コンセントが抜けていませんか？

Q 0 2 「本体からの応答がありません。本体の電源及びこのパソコンとの接続状態を確認してください。」というメッセージが表示される。

A 0 2 本体の電源は入っていますか？

本体とP CがR S - 2 3 2 Cケーブル等で接続されていますか？

以上を確認後、「設定メニュー - 通信ポート設定」を行ってください。

Q 0 3 試験結果を保存するデータベースファイルを開こうとすると、エラーメッセージが表示される。

A 0 3 二重ジャンパ試験とは関係がないファイルではありませんか？

選択したファイルがW i n d o w s上で開かれていませんか？

Q 0 4 試験データ読み込みを行うと「不正データ」が何件かある。

A 0 4 局情報設定での「市外局番」設定に誤りはありませんか？

電話番号の取り込み位置（列番号）の指定に誤りはありませんか？

電話番号データに誤りはありませんか？

Q 0 5 試験データ読み込みを行うと「重複データ」がある。

A 0 5 データファイルの中に同じ電話番号データが複数存在していませんか？

Q 0 6 ファイルに書かれた電話番号から、回線種別を公衆やオフトークに変換しようとしたが、変換されない。

A 0 6 局情報設定での「市外局番」設定に誤りはありませんか？

変換対象の電話番号に誤りはありませんか？

Q 0 7 試験設定画面上で、試験信号受信レベルのグラフを表示したいが「該当するデータは有りませんでした。」となる。

A 0 7 該当するデータはありますか？

詳細モード試験結果なら、「サンプリング」は行われていますか？

簡易モード試験結果なら、該当するデータは2件以上ですか？

Q 0 8 共用L C設定で、新しいL C登録やL C情報編集を行うとエラーメッセージが表示される。

A 0 8 L Cメーカー名の設定の際にバージョン設定を行いましたか？

Q 0 9 レコードメニュー編集で回線種別を変更したら、エラーメッセージが表示される。

A 0 9 A D S L 收容位置（A D S L（交換機側）、A D S L（加入者側））にデータがあるのに、「一般」や「公衆／ピンク」に変更していませんか？

A D S L 收容位置が（A D S L（交換機側）、A D S L（加入者側））に

データが無いのに、「A D S L」や「公衆A D S L」に変更していませんか？

- Q 1 0 試験やデータサンプリングを行うと、「試験端子不良」となる。  
A 1 0 試験用端子接続確認試験を行い、Q 1 1～Q 1 3を参照してください。
- Q 1 1 試験用端子接続確認試験を行うと、  
「電池(48V)無し / L 1-L 2のレバース」という結果になる。  
A 1 1 モジュラーコードが抜けていませんか？  
試験用端子のサービスオーダー登録が正しく行われていますか？  
L 1-L 2の極性が逆ではありませんか？
- Q 1 2 試験用端子接続確認試験を行うと、  
「ダイヤル前にDTが来ない」という結果になる。  
A 1 2 試験用端子のサービスオーダー登録が正しく行われていますか？  
試験用端子がハイアンドドライになっていませんか？
- Q 1 3 試験用端子接続確認試験を行うと、  
「ダイヤル後にBT以外を受信」という結果になる。  
A 1 3 試験用端子のサービスオーダー登録が正しく行われていますか？
- Q 1 4 データサンプリングを行うと、「サンプリング失敗」となる。  
A 1 4 対象回線が正常ジャンパかお確かめください。  
正常ジャンパでも「失敗」となる場合は、別の回線で再度行ってください。
- Q 1 5 試験やデータサンプリングを行うと、「試験対象外」となる。  
A 1 5 その回線のサービスオーダー登録が正しく行われていますか？  
「市外局番」設定に誤りはありませんか？
- Q 1 6 同じ回線を何回試験しても「加入者話中」となる。  
A 1 6 その回線のサービスオーダー登録が正しく行われていますか？
- Q 1 7 「試験対象がありません。設定に誤りはありませんか？」という  
エラーメッセージが表示される。  
A 1 7 試験範囲の設定内容に該当する(回線)データがありません。  
設定を変更してください。
- Q 1 8 試験回線を複数選択できない。  
A 1 8 画面上から試験回線を複数選択する場合は「C t r lキー + マウスクリック」、  
または「S h i f tキー + ↑・↓」で試験したい回線を選択してください。

## 8. 保守

### 8. 1 メンテナンス

本品は、通常の軽い衝撃には十分耐えますが、外観上著しいキズがつくような衝撃を受けたときや、購入後1年以上経過したときは、当社にてメンテナンスを受けられることをお勧めします。

(メンテナンスは有料となります。)

### 8. 2 故障修理

本品に関する故障修理等は、故障品を当社へお送りいただき、修理後ご返送することを原則とさせていただきます。

保証規定(60頁)の記載事項において、保証期間内における修理は無償になっています。保証規定以外のご使用による故障、または、保証期間後の故障において修理可能な場合は有償とさせていただきます。

製品をご返送の際は、添付品を含め当社出荷時の梱包、または同等以上の梱包状態でお送りください。当社到着までの事故に関しては、責任を負いかねますので、安全確実な輸送手段をお選びください。

### 8. 3 本品に関するお問い合わせ

#### 1) 二重ジャンパ自動試験装置「8」全般についてのお問い合わせ先

本品のお問い合わせにつきましては、当社営業部二重ジャンパ自動試験装置「8」担当者までご連絡ください。

〒108-0074 東京都港区高輪3-8-13  
東京通信機工業株式会社 営業部  
TEL:03(3447)2421(代)  
FAX:03(3447)0426  
E-mail:sales@totsuki.co.jp

電話受付時間： 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

※お電話でのお問い合わせは、内容により即答できかねる場合がありますので、速やかな問題解決の為、事前にお問い合わせ内容をFAXにてお送りください。



## ■ 保証規定 ■

1. 本品は当社の厳格な社内検査に合格したものです。正常なご使用状態の元で、保証期間内に万一故障した場合、本保証規定に従い故障箇所の修理をさせていただきますので当社にお申し出ください。

※保証期間は納入後1年間とし、本品のハードウェア部分に限らせていただきます。

2. 次のような場合には、保証期間内であっても有償修理となります。
  - 1) お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等お客様のお取り扱いが適正でないために生じた故障及び損傷。
  - 2) お客様によるご使用上の誤り、あるいは不正な改造、修理による故障及び損傷。
  - 3) 火災、地震、水害、落雷等の天災地変、あるいは異常電圧等の外部要因に起因する故障及び損傷。
  - 4) 本書に記載された使用方法、及び注意事項に反しますお取り扱いによって生じた故障及び損傷。
  - 5) お客様から出張修理のご請求があり、出張修理を行った場合。
3. 本書に記載する内容を無視したご使用をされたことによります故障、またはそれにより生じた直接、間接的な損害については、当社はその責任を負わないものとします。

二重ジャンパ自動試験装置「8」 取扱説明書 CM79-1001

---

平成20年 10月 3版発行

東京都港区高輪3-8-13



東京通信機工業株式会社

<http://www.totsuki.co.jp/>

TEL 03(3447)2421(代) FAX 03(3447)0426

---

本説明書は、二重ジャンパ自動試験装置「8」の添付品です。